

令和4年度  
静岡市SDGs連携アワード  
連携事例集



静岡市

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

静岡市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

【制作・発行】

静岡市

【お問合せ】

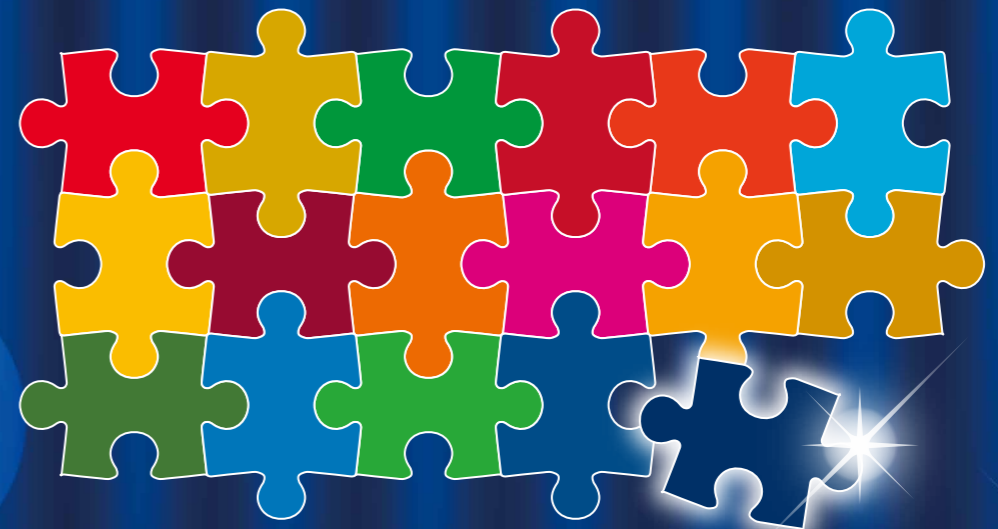
静岡市企画局企画課

静岡市葵区追手町5番1号

TEL054-221-1022

【印刷】

ナガハシ印刷株式会社



## 市長挨拶

静岡市長

田辺 信宏



“連携”に特化した全国初の表彰事業である「静岡市SDGs連携アワード」に、多くの事業所・団体の皆様から、環境・経済・社会の幅広い分野の取組をご応募いただいたことに厚く御礼申し上げます。

本書をご覧いただくと分かるとおり、SDGsを共通言語として、様々な事業所・団体が繋がり、さらなる取組に発展させていることがよく分かります。それぞれがもつ強みを組み合わせ、複数の地域課題解決に向けて取り組んでいる内容は、本市のみならず、日本国内、さらには海外の都市においても参考になるはずです。

今年の4月には、2023年度から2030年度までを計画期間とする「第4次静岡市総合計画」がいよいよ動き始めます。その終期である2030年度は、SDGsの目標期限とも一致します。SDGsに掲げられている世界共通の目標は、本市が目指すまちづくりの方向と重なるものであり、私たちがSDGs推進に向けてローカルに取り組むことで、その波及効果は世界に対しても影響を及ぼします。

これからSDGsに取り組もうとしている方、自らのSDGsの取組をさらに広げていきたい方、ぜひ本書をご覧いただき、様々な事業所・団体と繋がってください。「世界に輝く静岡」の実現という大きな目標に向かって、一丸となって取組を進めていきましょう。

1 はじめに（静岡市長 田辺信宏） ..... 1

2 令和4年度 静岡市SDGs連携アワード 概要 ..... 4

3 大賞・部門賞・SDGsハブ都市特別賞 事例紹介 ..... 5

【大賞】 水産物（マグロ）の未利用資源でみんなを健康に！ ..... 6

【部門賞】

- ・ローカルビジネス部門  
地域課題を異業種連携で解決！「わさび蓮根味噌漬け」の誕生！ ..... 8
- ・ローカルアクション部門  
海と山と街が繋がるディスプレイ ..... 10
- ・パートナーシップ部門  
エスパルスエコチャレンジ to 2050 ゼロカーボン・プロジェクト ..... 12

SDGsハブ都市  
【特別賞】 海の街でまなぶ 小中学生からのSDGs!! ..... 14

4 連携した取組事例紹介

1 貧困をなくそう ..... 1

2 飢餓をゼロに ..... 2

3 すべての人に健康と福祉を ..... 3

4 質の高い教育をみんなに ..... 4

5 ジェンダー平等を実現しよう ..... 5

6 安全な水とトイレを世界中に ..... 6

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに ..... 7

8 働きがいも経済成長も ..... 8

9 産業と技術革新の基盤をつくろう ..... 9

- ・地域課題を異業種連携で解決！「わさび蓮根味噌漬け」の誕生！ ..... 9
- ・SDGsに取組む企業・団体の組織発足による相互連携 ..... 22

10 人や国の不平等をなくそう ..... 10

- ・誰もが輝ける社会を目指して！楽しみながら学べる『SDGsかるた』の製作と活用 ..... 23

11 住み続けられるまちづくりを ..... 11

- ・『モルックで地域も人間関係も活性化』 ..... 24

12 つくる責任 つかう責任 ..... 12

- ・水産物（マグロ）の未利用資源でみんなを健康に！ ..... 7
- ・耕作放棄地を解消したい、そんな思いから生まれた生姜商品 ..... 25
- ・農家の助けに「もったいない野菜オンライン交流マルシェ」 ..... 26
- ・コーヒーかすと微生物の発酵力を用いた植物活性化剤の開発 ..... 27

13 気候変動に具体的な対策を ..... 13

- ・エスパルスエコチャレンジ to 2050 ゼロカーボン・プロジェクト ..... 13

14 海の豊かさを守ろう ..... 14

- ・海と山と街が繋がるディスプレイ ..... 11

15 陸の豊かさを守ろう ..... 15

16 平和と公正をすべての人に ..... 16

- ・企業リソースをフル活用してウクライナの子供達に支援の輪を！ ..... 28

17 パートナーシップで目標を達成しよう ..... 17

- ・【しずおかSDGsフェスタ2022】の企画立案と開催実施 ..... 29
- ・SDGsが学べるノートを学生に！ ..... 30
- ・エスパルスホームゲームイベントにて『SDGs DAY』を開催 ..... 31

5 連携事業所・団体 一覧 ..... 32



### 1 静岡市 SDGs 連携アワードとは

地域課題の解決に向け、持続可能な開発目標「SDGs」の目標17（パートナーシップで目標を達成しよう）を通じた事業所・団体間の連携した取組を増やすことを目的としており、SDGs達成に向けて行われる取組のうち、事業所・団体間の連携を誘引しやすく、汎用性の高い取組を行っている2以上の異なる事業所・団体によるグループを表彰します。  
 このような連携した取組に特化した表彰制度は、国内初の試みになります。

### 2 評価項目及び基準

提出された「応募シート」の記載内容について、【汎用性】及び【For SDGs】の各項目で評価を行い、選考委員会の報告・意見を踏まえ、総合的に表彰対象を選考します。

#### 【汎用性】

項目	着目点
連携可能性	様々な分野による連携が可能か (様々な事業所・団体が参加しやすいか) (限られた事業所・団体でのみ連携可能な取組でないか)
普遍性	何をきっかけに取組が進められたか (特殊な環境・要因が介在していないか)
持続可能性	取組・連携の継続が期待できるか (取組を継続させるのに特殊な技術や資金が必要とならないか)

#### 【For SDGs】

項目	着目点
効果	17の目標の達成に貢献できるか (環境・経済・社会のいずれもの目標達成に貢献しているか) (SDGsの普及、啓発だけにとどまっていないか)
新規性	目新しさ・ユニークさがあるか (他で行っていない取組又は知られていない取組か)

### 3 応募におけるメリット

**受賞または事例集に掲載されることによる広告効果**  
 ・市HP及び冊子にて公表されることによる情報発信

**他事業所・団体の取組を把握し、連携の模索・強化**  
 ・他の取組を知ることによる連携機会の増加

### 4 令和4年度 選考委員会 委員

選考委員会は、環境、経済、社会、教育分野等に関係する有識者、学識経験者等から幅広く委員を構成しています。

	氏名	所属		氏名	所属
委員長	佐久間 信哉	慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任教授	委員	弓削 幸恵	NPO法人まちなびや 理事長
委員	山本 由加	認定NPO法人しずおか環境教育研究会 理事長	委員	今井 雄也	一般社団法人サステナブルマップ 代表理事
委員	松永 秀昭	静岡商工会議所 常務理事			

### 5 本年度のユースアクション部門賞について

本年度のユースアクション部門賞は、以下の理由により、受賞なしとなりました。

受賞なしとした理由	事業所・団体の皆様へ
ユースアクション部門賞においては、「若者が自らの視点でSDGsを捉え、主体的に行う取組」に対して選考を行っており、本年度の応募事例から該当する取組を決定することが困難であったため。	SDGsの達成期限である2030年の社会で中心的な役割を担っていくのは、今の10代・20代の若者になります。 若者が主体となった取組を運営している、連携している事業所・団体の皆様、市内外へその取組を発信していきましょう。



大賞



部門賞

- ・ローカルビジネス 部門
- ・ローカルアクション部門
- ・パートナーシップ 部門



SDGsハブ都市 特別賞





# 大賞

## 選考委員からのコメント

大学や研究機関との協働により、これまで捨てられていた端材を限りなく有効活用し、持続可能な事業として展開していることは、SDGsの三側面(環境・経済・社会)の観点から評価できる。

廃棄物の活用だけでなく、行政・研究機関との連携、生産工程の福祉連携、首都圏販路の獲得等、事業デザインが緻密で現実的である。

## SDGsインパクト

**8** 働きがいも経済成長も  
【ターゲット 8.5】  
完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事等を達成する  
【ターゲット 8.6】  
就労、職業訓練等を行っていない若者の割合を大幅に減らす

製造工程で発生する端材を有効活用する際、単に自社内で完結するのではなく、就労継続支援B型事業所との福祉連携により、就労の機会を提供することで、働きがい及び経済成長に繋がる取組を行っている。  
今後も他の事業所・団体と連携して、さらなる商品開発、販売が行われることにより、継続した仕事や雇用の創出が期待できる。

**12** つくる責任 つかう責任  
【ターゲット 12.5】  
発生防止、削減、リサイクル等により廃棄物の発生を大幅に削減する  
【ターゲット 12.8】  
持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識をもつ

製造工程で発生する端材が毎日 300kg 廃棄されるという課題から、その高い栄養価に着目し、健康に結び付けて商品開発を行っている取組は、単に廃棄物の削減に寄与するだけでなく、他の分野への波及効果が期待できる。  
食べることを通じて、子どもから高齢者まで、幅広い世代に向けて、資源の有効活用を伝えることが可能となり、持続可能なライフサイクルに関する情報と意識をもつことに繋がっていく。

**14** 海の豊かさを守ろう  
【ターゲット 14.2】  
健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う

国内外で高い需要のあるマグロは、限りある水産資源である。廃棄されていた端材を大学や研究機関と連携して、有効活用するサイクルは、国内のみならず、世界中で真似してほしい内容であり、マグロのみならず、様々な水産資源に対しても応用できるものである。  
また、食べることを通じて、個人レベルでも海洋問題を考えるきっかけを与えることが可能となる。

## 他に波及が期待できる SDGs 目標

**2** 貧困をゼロに  
【ターゲット 2.1】  
長期保存が可能な商品開発により、幅広い地域・人々への提供が可能である。

**10** 人や国の不平等をなくそう  
【ターゲット 10.2】  
就労継続支援事業所との連携による、社会的・経済的な能力強化に貢献している。

## 水産物(マグロ)の未利用資源でみんなを健康に!

(株)DHAマリンフーズ × 東海大学海洋学部 × 静岡県工業技術研究所 × (株)nanairo

**1.取組概要**  
鮪専門加工業を営んでいる(株)DHAマリンフーズが自社工場にて製造するネグトロの端材が毎日300kg 廃棄される事実、資源の有効活用として商品開発に着手しました。商品開発を進めて行く中で、常温で世界中に広めていける常温品の商品化を切望し、東海大学・県の工技研の協力を得て商品を上りさせます。また、その開発商品からも製造工程で端材が出るため、その廃棄を何とか食い止めるべく清水区の銀座「なないろ」に端材を提供、再リサイクルの仕組みを構築し、マグロバーガーとして市民に安価にて提供しております。海のさかなには骨や鱗など必ず廃棄しなければならない部位があります。しかし、逆にこの廃棄せざるを得ない部位に高い栄養価が含まれております。その廃棄部分を肥料などだけでなく人が食べるものを作り、それにより健康になれる商品を作ることは、私たち水産加工を担うものの使命だと受け止めております。

<b>2.該当するSDGs目標</b>	
<b>3</b> すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な食事をサポートするべく、高たんぱく質、高カルシウムなマグロ製品を提供いたします。手軽に食べられるよう「持ち運べるさかな」をコンセプトにバー状の商品開発を行いました。長期常温保存が可能であるため世界中の人々に届けることを目指します。
<b>14</b> 海の豊かさを守ろう	限りある水産資源を大切に、積極的に未利用資源を用いた商品開発に取り組みます。フードロスの削減、水産資源枯渇への歯止に貢献します。廃棄ロス 980kg/月 → 0kg/月(目標)
<b>12</b> つくる責任 つかう責任	この製品に入っている栄養素のCa・EPA・DHAなどは、従来は廃棄しなければいけなかったものを使用しています。SDGsの製品作りからも再度未利用資源ができるため、それも再々利用可能な仕組みを作ります。

**3.取組イメージ**

DHAマリンフーズ→ねぎとろ、切り落としの加工(毎日約300kg 廃棄)→東海大学海洋学部×静岡県工業技術研究所とコラボし研究を重ね、SDGs action! 破棄されていた部位を使用し新商品を作る。(そこで出る切れ端、端材)→就労支援施設「なないろ」にてつくろ無農薬野菜とコラボし、銀座レストラン「なないろ」にて安価で販売!

**4.ポイント**

未利用資源を商品化しようと東海大学海洋学部と静岡県工業技術研究所と連携し開発を重ね、商品化に成功しました。食品ロスからの商品を世界に広める活動に日々邁進しております。水産資源に限りがあることと同時に、廃棄されていたモノから栄養価を補給できることがポイントです。商品を食べることにより地球へ還元できます。

**5.取組が開始されたきっかけと展開**  
弊社は平成4年設立のマグロ専門の加工業者です。マグロの捕獲量制限などが社会問題化となる昨今、日々の工場から出る大量のパイロダクトの実態を打破し、平成29年度より未利用資源を商品化しようと東海大学と連携し開発を重ね、商品化に成功します。日本において生食が当たり前とされているマグロですが、今後はグローバルに食することのできる製品を視野に入れ(ハラル対応等)食品ロスからの商品を世界に広める活動をするにより、資源の大切さを伝えます。  
研究支援を東海大学海洋学部より受けるのと並行して、静岡県工業技術研究所へも相談し、製品に付加価値を付け産業官連携商品となる製品を上市させます。  
現在はその商品の販売促進とともに、シール不良や量目不足のNG商品等で品質に問題の無い商品を地域のフードバンクに寄贈するなど、食品ロス削減活動の普及啓発に努め、その取組や方針を示唆しています。  
また、再利用製品を製造する工程で端材が出てくるため、それを業務提携している就労継続支援B型事業所「nanairo」の採れたての無農薬野菜とブレンドし、マグロハンバーグに使用され、レストラン銀座「なないろ」にて、「マグロカツたま〜が〜」として、一般市民へ安価で販売されています。

**7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**  
弊社のHPでも食品ロスの取組などを表明しております。また、東海大学のネットワークで商品のコンセプトなどを拡散していただき、多くの人の目に留まるように、大学関係者と協働して取り組んでいます。さらに自治体などにも働きかけ、一度は廃棄されようとしていた魚が生まれ変わり、人の口に運ばれる製品になれることの啓発活動の一環として、静岡防災協会の会員登録や静岡市フードバンクへの食品提供などを進めております。  
企業アスリートから高齢者、子供など幅広く認知して商品を食べることにより、海の大切さも伝えることができます。生産者から消費者まで一体となり、資源循環型社会の実現を目指すことができます。

**6.応募した取組の今後の計画・展開**  
商品の認知度が高まると生産量が増加し、弊社のパイロダクトだけでは製造が賅いきれなくなります。そこで、他の水産加工業者より原料を入手することにより業界全体の廃棄量を減らします。また大学や他業種とも連携を取りながら、さらなる商品のブラッシュアップを進めていきます。商品を市場へ提供することによる消費者への啓発も粛々と進めています。さらに機能性表示の取得完了を目指しており、取得が実現すれば、高齢者へのアピールも容易となります。

フードロス削減に向けた未利用資源の有効活用!!!  
まぐろ王国静岡からの『新製品』『新食文化』の発信  
現代の健康志向需要に適した商品供給が可能  
(DHA・EPA・カルシウムが豊富)  
新たなマグロ販売チャネルの創造が可能(病院・介護施設・保育/幼稚園など)

↓

企業間の連携により地域産業の振興に貢献できます  
企業の技術発展や競争が期待できます





# 部門賞 ローカルビジネス部門

## 選考委員からのコメント

日本の課題である農家の後継者不足に対し、企業と学生が連携して新商品の開発を行い、地域活性化等に寄与する事業は、SDGsの三側面(環境・経済・社会)を具現化する事業として評価できる。

静岡らしさとビジネスの融合が見事。今後の展開が楽しみであり、目新しさと今話題の徳川家康公との連想もでき、広報的価値も非常に高い取組である。

## SDGsインパクト

**9 産業と技術革新の基盤をつくろう**

【ターゲット 9.2】  
包括的かつ持続可能な産業化を促進し、雇用及び産業セクターの割合を大幅に増加させる

【ターゲット 9.4】  
資源利用率の向上等による産業改善により、持続可能性を向上させる

様々な事業所と連携し、それぞれのもつ強みを組み合わせ、新たなビジネスモデルを作り上げており、このモデルに様々な事業所・団体が加わることで、さらなる広がりが期待できる。商品パッケージで環境に配慮した素材を活用するなどして、供給による環境負荷がかからない工夫をしている点も、他の事業所・団体の模範となる。

**11 住み続けられるまちづくりを**

【ターゲット 11.4】  
世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する

【ターゲット 11.a】  
各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、都市部、都市周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する

世界農業遺産に認定された「静岡水わさびの伝統栽培」を商品化により広く周知することで、市民レベルの興味・関心を高め、持続可能な生産に向けた、後継者不足の解消に繋がっていく。地産地消、地域活性化に寄与することにより、都市部と農村部間の距離が近くなり、エコツーリズム等を通じて、双方の良好な繋がりを維持することが期待できる。

**17 パートナリーシップで目標を達成しよう**

【ターゲット 17.17】  
効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

営利を目的とする事業所・団体に加え、教育機関が連携しており、様々なステークホルダーが力を合わせ、それぞれの強みを活かしたパートナーシップで取組が行われている点が評価される。地域の事業所・団体が連携し、地域資源に対して新たな付加価値を創造する1つのビジネスモデルとして、他の地域に普及することが期待できる。

## 他に波及が期待できる SDGs 目標

**4 質の高い教育をみんなに**

【ターゲット 4.7】  
地域の伝統に対する理解、マーケティング技法を学ぶことによるスキル向上が期待できる。

**15 陸の豊かさも守ろう**

【ターゲット 15.4】  
山地生態系の保全を行うことによる持続可能な開発に繋がっていく。

## 地域課題を異業種連携で解決！「わさび蓮根味噌漬け」の誕生！

(株)季咲亭 × 日興美術(株) × 浮月楼 × あおい高原育苗生産(株) × 県立駿河総合高校

**1. 取組概要**

地元静岡市は、その昔徳川家康公が香りと独特の辛味を絶賛し、門外不出とされた「わさび」の栽培発祥の地であり、「静岡水わさびの伝統栽培」は、2018年に国連食糧農業機関 (FAO) の「世界農業遺産」に認定されています。国内だけでなく世界へ輸出されるほど需要がある一方で、「農家の後継ぎ問題」という課題を抱えていることから、課題解決に向け、地元企業・学生がそれぞれの強みを生かし、異業種連携による「わさび蓮根味噌漬け」を開発しました。

「食」・「学」・「歴史」をキーワードに、「徳川家康が愛した駿府・安倍川の清流が育んだ逸品・わさび蓮根味噌漬け」と銘打ち、地元企業・学生連携のもと、地産地消、地域活性化・観光促進に寄与する取組です。

**2. 該当するSDGs目標**

**9 産業と技術革新の基盤をつくろう**  
各事業所と連携し、静岡市山間地域「オクシズ」の水わさびの良さと背景のストーリーを共有し、新商品の開発に取り組みました。現在進行形で取組んでいる地産地消のビジネスモデルの取組にも繋がっています。(ターゲット: 9.b)

**11 住み続けられるまちづくりを**  
地産地消、農産物の需要が増すことによる農業の活性化や歴史文化を発信する事で観光業へ寄与し、地元経済の活性化に取り組んでいきます。(ターゲット: 11.4, 11-a)

**17 パートナリーシップで目標を達成しよう**  
地産地消、地域活性化・観光促進を目的に、異業種連携のもと、知識、技術など、それぞれの強みを活用・共有しながら、商品開発を実施しました。企業の成長、生産者、商品開発・製造者、消費者が商品を通じて繋がることにより、それぞれが無理なく地域課題の解決に貢献することができています。(ターゲット: 17.17)

**3. 取組イメージ**

**4. ポイント**

温故知新の名の通り、地元静岡で産学共同企画で連携し、それぞれが持つ発信力、想像力、製造力を、歴史に寄り添いながら深掘りし、静岡市の農業遺産と歴史文化を掛け合わせ、美味しく頂ける「わさび蓮根味噌漬け」を開発しました。

農業や歴史など、簡単に理解できない事も具現化し、味わうことで興味を持って頂くことで静岡の良さを一部を再認識でき、地産地消の観点でも地元農業の活性化と観光産業へ貢献していきます。

**5. 取組が開始されたきっかけと展開**

2021年9月、静岡市内で印刷・製本業を営む「日興美術(株)」と漬物の製造・販売を行う「(株)季咲亭」が連携し、日興美術(株)が2022年4月に静岡市内で開催を予定していた「しずおかSDGsフェスタ」でお披露目するため、静岡市の歴史文化、地域資源をリブランディングし、持続可能な社会をパートナーシップで実現できるような商品開発企画がスタートしました。

2021年10月、「わさび」歴史をテーマに、徳川慶喜公屋敷跡に老舗料亭として創業し、静岡市の歴史文化の発信にふさわしい「浮月楼」と、世界農業遺産「静岡水わさび」生産者の承諾を得て商品開発に着手し、同時並行する形で、県立駿河総合高校マーケティング部の生徒さんと開発製品を題材に静岡市の歴史文化の掘り起こし、どの様にマーケティングを行うか考え、理解を深めていきました。

2021年12月より、浮月楼の藤村料理長様監修の下、「徳川家康公、慶喜公が晩年過ごした静岡で好んで食べたれんこんと家康公が愛した安倍川清流の山菜をどの様に製品化するか」をテーマに試作を繰り返し、味や切り方など20回以上の試行錯誤を行いました。当初予定していた商品発表会には間に合いませんでしたが、商品完成後に日本航空(株)様の2022年9月、10月のファーストクラス機内食に採用され、計55kgを出荷する予定となり、並行して一般販売に向け、2022年10月27日に商品発表会を予定しています。

**6. 応募した取組の今後の計画・展開**

予定している商品発表会を機に、静岡市ならではのお土産・名産品として「わさび蓮根味噌漬け」を周知し、一般消費者や小売業者等の関心を高め、持続可能な販売を目指していきたいと考えています。

流通量が増えることで、わさび蓮根味噌漬けの需要と共に水わさびの需要も高まり、課題となっている「農業の後継ぎ問題」の解消にもつながっていきと考えています。

さらに、「世界農業遺産」に認定されている静岡市葵区産の水わさびの認知度向上、静岡市山間地域「オクシズ」の活性化につなげ、低迷している静岡の観光促進、観光客へのサービス向上に寄与していきたいと考えています。

静岡市の特産品、歴史を活用し、国内外に発信できる強みを持った商品を、異なる特徴を持つ企業、学校が連携することで生み出すことができました。SDGs未来都市、SDGsハブ都市でもある静岡市内の企業として、さらなる企業・団体連携を模索しながら、中小企業におけるSDGs推進を今後もけん引していきます。

**7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**

●異業種の連携による新たな価値創出(農業後継者不足の解消)

近年、人手不足による生産性の低下、農産物を適正な価格で販売することが出来ない(安く買ひ叩かれる)など、静岡だけでなく、全国的に農業を取り巻く問題が起きています。

統計的農業従事者(個人経営者)	単位:人、%							
	平成27年	28年	29年	30年	31年	令和2年	3年	4年
総計的農業従事者	175.7	159.6	150.7	145.1	140.4	136.3	130.2	122.6
うち女性	75.1	65.6	61.9	58.6	56.2	54.1	51.2	48.0
うち高齢者(65歳以上)	114.0	103.1	100.1	98.7	97.9	94.9	90.5	85.0
うち平均年齢	67.1	66.6	66.6	66.6	66.6	66.6	67.9	67.9

出典:農業労働力に関する統計(基幹的農業従事者(個人経営者))農林水産省 (https://www.maff.go.jp/j/tokei/sihyo/d ata/08.html)

●魅力ある地域資源の活用提案(農産物+観光+歴史)

世界農業遺産の水わさび、オクシズの豊かな景観を手軽に感じて頂き、興味を持って頂く事がこの商品開発の一つの側面となっています。いわゆる一つの情報発信ツールとして活用し、商品背景に隠れるストーリー(本製品では徳川家にスポットを当てた)の歴史文化を感じることによって、水わさびそのものから、栽培地や販売所、徳川家康公ゆかりの地巡りなど、観光促進に寄与することができます。

地域特有の農産物や歴史、文化などを単体で捉えることなく、特有の資源と地元企業の強みを掛け合わせることで、新たな付加価値を付けることができる点は、他の地域・企業等も真似しやすい着眼点ではないかと思えます。





# 部門賞 ローカルアクション部門

## 選考委員からのコメント

アートを「育てる」という継続性がよい。幅広い世代に対して環境問題への注意喚起にも繋がる。

素材調達に地域活動を絡めたことは評価できる。環境問題の発信をさらに進め、教育に活かすことができれば、さらなる広がりが期待できる。

## SDGsインパクト

**12 つくる責任 つかう責任**  
【ターゲット 12.5】  
発生防止、削減、リサイクル等により廃棄物の発生を大幅に削減する  
【ターゲット 12.8】  
持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識をもつ

世界文化遺産富士山の構成資産である三保松原の保全活動として行われる松葉かきの際に廃棄される松ぼっくりを利用し、様々な世代に向けて環境問題に対する啓発を行う取組は、他の地域においても真似できる内容である。  
身近にあるものを活用し、アートとして付加価値を生み出す取組は、自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識付けを促進させることが期待できる。

**14 海の豊かさを守ろう**  
【ターゲット 14.2】  
健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う

アートとしての付加価値を創造することで、三保松原の保全活動に関心をもつ人が増え、海洋・沿岸保全の取組の広がりに貢献できる。  
また、松葉かきのみならず、プラスチックごみなど海洋問題の原因に対してアップサイクルする取組は世界中で行われており、アートとして認識されることで、同様の取組が地域内に波及することが期待できる。

**15 陸の豊かさを守ろう**  
【ターゲット 15.1】  
陸域生態系及びそのサービス保全、回復及び持続可能な利用を確保する  
【ターゲット 15.4】  
生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う

本市の中山間地域「オクシズ」の間伐材を用いて、事業者と連携してアートとしてアップサイクルすることで、山地の持続可能な保全・利用に対する啓発に繋がっていく。  
海洋資源と山地資源を上手く組み合わせ、様々な世代に楽しんでもらえる作品に仕上げる内容は、他の地域に同様の取組が広がっていくことが期待できる。

## 他に波及が期待できる SDGs 目標

**11 住み続けられるまちづくりを**  
【ターゲット 11.4】  
世界文化遺産である三保松原の保全強化に繋がっていく取組である

## 海と山と街が繋がるディスプレイ

アートユニオン株式会社 × 株式会社大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店  
株式会社玉川きこり社 × 三保松原 3 Ringsプロジェクト

### 1. 取組概要

商業の最盛期であるホリデーシーズンに、ご来店のお客様や通行される方へ美しさや華やかさを提供し、街の賑わい創出に貢献するディスプレイを展示しました。同時に、地域の課題を多くの方に知っていただき、地域への愛を育む取組を目指しました。また、この取組は「育てるディスプレイ」として、その素材を継続的に使用し、一年限りではない、未来へと続くプロジェクトです。

### 2. 該当するSDGs目標

<b>14</b> 海の豊かさを守ろう	三保松原の松の保全を目的とした、松葉かきを毎週行っている三保松原 3 Ringsプロジェクトと連携し、拾った松ぼっくりをオーナメントにアップサイクルしました。三保松原 3 Ringsプロジェクトは、三保松原の景色を1000年先まで残す、という目標達成のために、今も毎週土曜日に松葉かきを行なっています。
<b>15</b> 陸の豊かさを守ろう	静岡市の7割以上が森林資源ですが、人の手によって管理循環させている「人工林」がその多くを占めています。地元の木を使うことは、その森林の手入れを促進し、環境問題を改善させる1歩だと考えています。きこり社は主に林業を行っていますが、地元の木を使用した家具や装飾などを手がけ、山の環境保全に日々取り組んでいます。
<b>12</b> つくる責任 つかう責任	ディスプレイ会社であるアートユニオンは、毎日のように店内の装飾や展示会のブースを造っています。このリースのように、なるべく環境に優しく、地元の問題に配慮した素材を選ぶようにしていますが、止むを得ず違う素材を使う事もあります。その際は、そういった素材を使わない案を用意したり、作成した物は捨てずなるべく流用するなど心掛けています。

### 3. 取組イメージ



### 4. ポイント

直径2m超え、重さは100キロ以上の巨大リースです。枝の皮を剥いて組んだリースに、LEDのライトを巻いて、三保松原の松ぼっくりと、オクシズの木で作成した星形のオーナメントを付けました。着色はオーガニック塗料を使用し、なるべく自然に優しいもので作る事にこだわりました。

### 5. 取組が開始されたきっかけと展開

2020年に三保松原環境の保全のため、松葉かきをした際に集まった松ぼっくりをいただいたことをきっかけに、多くの方に環境課題を知っていただく機会をつくりたいと考え、ホリデーディスプレイの素材として使用しました。  
また、環境課題を発信する一方で、我々自身も廃棄物の削減を行うため、素材を毎年使用し続けることを考えました。迎えた2021年は、違う要素も取り入れた装飾を作りたいと考えていたところ、別のプロジェクトで繋がりのあった玉川きこり社さんからオクシズの間伐材の話を知り、今回の枝を組み合わせたリースが生まれました。  
また、少しでも長く展示ができるディスプレイを目指し、クリスマスに強く連想させるツリーではなく、リースを採用しています。枝の皮を剥き、組み合わせる作業はかなり大変でしたが、たくさんの方々のご協力もあり、なんとか設営日の前日に完成しました。最後の仕上げの飾り付けは、このプロジェクトに関わった全員で行いました。

### 6. 応募した取組の今後の計画・展開

ホリデーシーズンの街に華やきをもたらし、ご覧になった方に幸福感を提供すると同時に、地域の課題に触れ、地域への愛を育む取組の根幹は変えませんが、本年は、これまで使用した素材を流用しつつ、さらに多くの方に「参加」いただくディスプレイを目指します。  
例えば地元の皆さんと松葉かきをして、その松葉で何か飾りを作ったり、間伐材を加工した丸い板に絵を描いてもらったり…まだ企画段階ですが、これから5年、10年と、この活動を続け、もっと沢山の皆さんに参加して頂き、少しでも多くの人たちと地元静岡が抱えている環境問題について考えられたらと思っています。

### 7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

使用した木の枝はオクシズのものですが、木の枝はどこにもありますし、松ぼっくりも三保松原でなくても拾うことができます。そんなどこにでも落ちているようなもの、普段だったら使わない「価値のないもの」に、いかに「付加価値をつけて使っていくか」その工夫と視点がポイントだと思います。  
山に枝が落ちていて「綺麗だな」と思う人は少ないと思いますし、道端の松ぼっくりを見て「家に飾りたい」と思う人も少ないと思います。ですが、リースになった途端に「綺麗」と言って写真を撮ってくださったり、「家に飾りたいからもらえませんか？」と声をかけてくださる人が多くなりました。  
それは、山に落ちていた枝だと思われなかった、道端に落ちていた松ぼっくりと同じものだと思われなかった、という事です。ゴミをゴミだと思わなければ、ちゃんと素敵だと思ってもらえるのだと実感しましたし、アップサイクルの可能性も感じました。ただのゴミに見える物も一つ手をかければ使えるんじゃないか？と、そういう目で見ると周囲を見る企業が増えていけば、環境問題は自然と減っていくと思いますし、そんなに難しい事ではないと思います。また、身の回りで見つけている課題に、今までよりも少しだけ気を配り、一歩踏み出す勇気で参加してみるところから、今回のプロジェクトは始まっています。社会的に環境問題が大きな話題になっている現在、身近なところで様々な取組がされています。日頃のちょっとした意識付けでそれらを発見し、参加することができるのではないのでしょうか。



←皮を剥く前の枝  
木を伐採し、加工する際に枝は山の中に置いていきます。今回はこの、普段は山に取り残される枝を活用しています。皮をむき、磨くと綺麗な白色になります。





# 部門賞 パートナーシップ部門

## 選考委員からのコメント

スポーツ関連企業だからこそそのパートナーシップを表現している。ブランド価値をSDGsの普及啓発に有効活用するモデルとして先駆的である。

世界的課題である気候変動に対して、発信力のあるプロスポーツクラブと行政・大学等が連携し取り組む事業は、評価に値する。

## SDGsインパクト

**4 質の高い教育をみんなに**  
【ターゲット 4.7】  
全ての学習者が持続可能な開発の知識と技能を習得できるようにする

地球温暖化防止、脱炭素をキーワードに様々な取組を行うことで、小学生から大学生レベルまで、幅広い若者に対する持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフサイクルの普及啓発・技能向上に繋がることに貢献している。地元大学と連携することにより、今後、高度かつ幅広い分野への波及が期待できる取組である。

**13 気候変動に具体的な対策を**  
【ターゲット 13.1】  
気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する  
【ターゲット 13.3】  
気候変動の緩和、適応、影響軽減等に関する教育、啓発及び人的能力等を改善する

プロスポーツクラブならではの視点で様々な事業所・団体に加え、サポーターも巻き込んでいる点及び一つの取組に捉われず、複数の取組を進めている点において、その影響による教育、啓発効果は高く評価できる。国内のみならず、海外の各種スポーツクラブでも参考になる取組であり、このような多くのステークホルダーによる連携した取組が国内外に広がっていくことが期待できる。

**17 パートナーシップで目標を達成しよう**  
【ターゲット 17.17】  
効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

事業所・団体に加え、地元教育機関と市内外のサポーターが連携しており、様々なステークホルダーが力を合わせ、それぞれができることを草の根によるパートナーシップで取組が行われている点が評価される。プロスポーツクラブがハブになり、様々な事業所・団体が連携するSDGsの取組としてのロールモデルとなる内容である。

## 他に波及が期待できるSDGs目標

**11 住み続けられるまちづくりを**  
【ターゲット 11.2】【ターゲット 11.7】  
シェアサイクルや校庭芝生化等、持続可能な交通システムや公共スペースの利用に貢献している。

**12 つる責任、つる責任**  
【ターゲット 12.5】  
紙コップの再利用化は、廃棄物の削減に貢献している。

## エスパルスエコチャレンジto2050 ゼロカーボン・プロジェクト

(株)エスパルス × 静岡県地球温暖化防止活動推進センター  
× 静岡市 × 静岡大学 × KPMGジャパン × 地域の企業・学校・団体等

**1. 取組概要**  
エスパルスは2007年より「地球にやさしいサッカークラブであるために。次世代に快適にサッカーのできる環境を引き継いでいくために。」をコンセプトに掲げ、クラブのサステナビリティの一つとして静岡県地球温暖化防止活動推進センター、静岡市をはじめ、行政、企業、教育機関などと連携し環境への取組『エスパルス エコチャレンジ』を継続的に実施しています。昨年11月には『ゼロカーボン プロスポーツクラブ宣言』を表明し、今年7月に静岡大学と連携しゼロカーボン・プロジェクトをスタート。これまでの活動に加え、クラブの公式サイト内に特設ページを公開したり、将来目標の明確化や新たな共創を模索することを目的としたワークショップ開催、プロジェクトへの賛同登録を募集するなど、新たな取組を展開しています。

<b>2. 該当するSDGs目標</b>	
<b>13</b> 気候変動に具体的な対策を	2007年より継続的に環境への取組を実施しています。エスパルスが活動していく中で排出される温室効果ガスの算定やそれを基に2050年に向けて排出量を実質ゼロにするロードマップの作成に取り組んでいます。
<b>11</b> 住み続けられるまちづくりを	サッカーを愛し、地域スポーツ文化の発展に寄与するクラブとして、次世代にサッカーを快適に楽しめる環境を残すことは、クラブの使命であると考えています。2021年度は6,302名の方がクラブの環境活動に参加しました。
<b>17</b> パートナーシップで目標を達成しよう	ゼロカーボン推進に向け、これまで以上にステークホルダーと協働し、活動を推進していきます。エスパルス ゼロカーボン・プロジェクトへの賛同個人76名、企業法人18団体（2022.10現在）

**3. 取組イメージ**  
Jリーグクラブの発信により、環境問題が『身近な自分ごと』に。

**4. ポイント**  
特設ページでは、温室効果ガスの排出による地球温暖化への影響やカーボンニュートラルについての解説、脱炭素型ライフスタイルに向けて私達が今できることを『プロサッカークラブならではの視点』で問題提起しています。Jリーグクラブの強みは発信力や人を巻き込む力。エスパルスが発信することで、環境問題を『身近な自分ごと』と捉えていただくことを目指し、活動を続けています。

**5. 取組が開始されたきっかけと展開**

- ・エスパルス エコチャレンジ第1章（2007-2012）  
2007年にCO2排出権購入について日本プロスポーツ界として初めて取り組むことを決定したことをきっかけに、環境への取組を開始。本活動は2010年と2012年に環境大臣賞を受賞。2009年より、「しずおか校庭芝生化応援団」、紙コップのトレットペーパー再生化を開始。
- ・エスパルス エコチャレンジ第2章（2012-2017）  
新たに5年間分のクレジットを購入。2014、15年に環境省の活動と連携しホームゲームにて「環境省気候変動キャンペーン Fun to Shareマッチ」を開催。2016年より静岡市と連携し「COOL CHOICE啓発活動」に取り組んでいます。
- ・エスパルス エコチャレンジ第3章（2018-2020）  
2019年、SDGs ACTION始動。クラブの優先SDGsに「SDGs13 気候変動に具体的な対策を」を選定。2020年にCOOL CHOICE事業の一環として静岡市シェアサイクルにブランド協力。
- ・エスパルス エコチャレンジto2050（2021-）  
2021年に「ゼロカーボンプロスポーツクラブ宣言」を表明。これまでも共に活動を行ってきた静岡大学と新たにプロジェクトを実施・推進。

**6. 応募した取組の今後の計画・展開**

- ・現在静岡大学とエスパルスが活動していく中で排出される温室効果ガスの算定や、それを基に2050年に向けて排出量を実質ゼロにするロードマップの作成に取り組んでいます。
- ・COOL CHOICE啓発や環境教育、スタジアムにおける活動など、社会連携にてこれまで続けてきた活動をさらにブラッシュアップし、新たな活動を展開していきます。
- ・クラブが地域のハブとなり、地域の皆様・企業の皆様とゼロカーボンを達成していくための道筋や、アイデアを模索する『エスパルスゼロカーボンプロジェクト・ワークショップ』を継続的に開催します。
- ・具体的な取組目標を定期的にご提案し、エスパルスゼロカーボン・プロジェクト特設サイトにて、皆様と共に取り組んだ成果を見える化し、公表します。

**7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**

4つのCHALLENGE ①in STADIUM/地球に優しいサッカースタジアムの実現 ②with SUPPORTER/ファン、サポーターと共に ③with PARTNER/企業・団体などと共に ④OURSELVES/クラブ自らの挑戦を軸に自らが率先してゼロカーボン推進に取り組むとともに、パートナー企業や自治体との協働によりその効果を増幅し、サポーターや地域住民をはじめ世界の人びとへ、その取組を発信する役割を担ってきたいと考えています。

ゼロカーボンの取組を静岡から世界へ





# SDGsハブ都市 特別賞

## 選考委員からのコメント

修学旅行をきっかけに、静岡市やSDGsを学ぶ機会が生まれるのは非常に効果的な取組と感じた。サステナブルツアーと銘打ち、静岡＝「海」以外の要素を組み込めればさらなる価値も期待できる。

修学旅行のプログラムとして新しく、質の高い自然環境や体験、場所、食事が安定して供給できるのは大きい。学習効果が高いので、県内向けにも訴求できる。

## SDGsハブ都市特別賞のポイント

★地域資源を活かし、体験型のSDGs学習を修学旅行として組み合わせて実践する取組は、国内のみならず、海外都市においても参考となるものであり、地域に訪れる人も巻き込み、関係人口に寄与する内容である。

★学生を巻き込むことで、地元の魅力を知るきっかけを与え、このような取組が全国に広がることにより、その地域ごとの魅力が見直され、草の根による取組に発展していくことが期待できる。

## SDGsインパクト

**4 質の高い教育をみんなに** 【ターゲット 4.7】 全ての学習者が持続可能な開発の知識と技能を習得できるようにする  
小学生や高校生問わず、幅広い年代に向けて、その地域に存在する持続可能な開発の取組を実際に見て、体験することが可能であり、様々な事業所・団体が連携することでより多くの分野の技能習得が期待できる。

**12 つくる責任 つかう責任** 【ターゲット 12.8】 持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識をもつ  
長年、製造の過程で発生する非可食部分を再利用して有機肥料化し、水産業と農業の持続可能な開発に貢献する取組を行っている事業所を巻き込むことにより、その分野のライフスタイルに関する情報と意識の啓発に貢献している。

**14 海の豊かさを守ろう** 【ターゲット 14.2】 健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う  
学習の中に地域資源である海の清掃活動や清水港の回遊、イルカウォッチング体験を盛り込むことで、海洋の生態系回復の取組に繋がっている。これら体験をした若者が家族を巻き込み、幅広い世代への海洋保全の意識啓発に貢献することが期待される。

## 他に波及が期待できる SDGs 目標

**11 住み続けられるまちづくりを** 【ターゲット 11.4】 三保松原のほか、その地域に存在する世界文化遺産、自然遺産の保護・保全に繋がることが可能である。

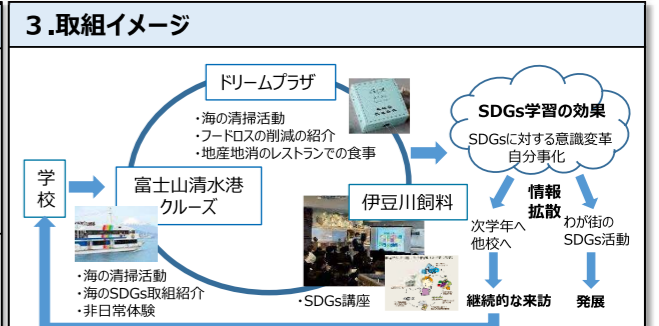
## 海の街でまなぶ 小中学生からのSDGs！！

(株)ドリームプラザ × 伊豆川飼料(株) × 富士山清水港クルーズ(株)

**1. 取組概要**  
コロナ禍による、修学旅行の近場への行先変更を追い風に、SDGs学習の推進から地域再生に繋がる「海の街でまなぶ 小中学生からのSDGs」修学旅行プランを企画し誘致しました。70年以上前からSDGsな取組をしている地元企業「伊豆川飼料」、持続可能な地域活性化を基本理念とした施設運営をしている「ドリームプラザ」、清水港遊覧船を運営している「富士山清水港クルーズ」の3社で、『①清水の名産「ツナ缶」を通じた「食の循環」SDGs講座②フードロスの削減を実施、地元の食材を調理した食事の提供③清水港遊覧を通して、富士山、三保の松原、駿河湾を五感で感じながら「海と共に発展した清水港」を堪能し、環境に対する意識を高める。』プランを実施しました。このプランを通して地域の個々の取組を結び付け、連携によるビジネスの機会を創出し、地域が抱える課題のサポート、持続可能なまちづくりを実現していきます。同時に、参加した生徒達はSDGsの観点から自分達の街の課題を考える事、アクションを起こす事を学び、SDGs活動の全国的な広がり的一端を担います。

**2. 該当するSDGs目標**

12 つくる責任 つかう責任	伊豆川飼料は70年以上前から、ツナ缶製造の過程で発生する非可食部分を廃棄せず再利用して有機肥料を製造しています。その肥料は静岡のお茶、みかん農家に長年愛用され、水産業と農業の循環の橋渡しとなっています。近年、日本の深刻な魚離れ・ツナ缶製造の減少・農業の衰退が問題となっており、この循環と産業の危機を感じ、問題提起のきっかけとなる新しいツナ缶を開発し、啓蒙活動を行っています。
4 質の高い教育をみんなに	地域資源を活用した体験型SDGs学習の推進と提供をテーマにした、ここ清水ならではの修学旅行プランを通して、「ツナ缶生産量日本一の清水」を生徒達にインプットしながら、その生産に深く関わり、70年以上前からSDGsに取り組んでいる伊豆川飼料が、リアルに感じている課題「循環と産業の危機」を、未来を担う若者達に伝えます。遊覧船からのイルカウォッチングを通して環境問題に対する意識を高める体験も提供しています。
11 住み続けられるまちづくりを	ここ静岡・清水で、この土地や資源の循環の改善を既に実践している企業と一緒に取り組む事で、「住み続けられるまちづくり」という目標を掲げたプロジェクトです。また、この修学旅行に参加した生徒達には、自分達の身近なところに課題がある事、意識を少し変えるだけでSDGsに取り組むことが出来る事を学んでもらいます。未来を担う若者のほんの小さなアクションで持続可能なまちづくりに関与できることを学ぶプランです。



**4. ポイント**

- 地域再生という観点から、SDGs学習を推進した地域資源の活用による静岡（清水）誘致策です。
- 庶民の味である「清水の名産 ツナ缶」を通じたSDGs講座の実施をし、SDGsを身近に感じながら学ぶ事が可能です。また、ツナ缶をお土産にする事で、静岡（清水）のPRも兼ねながら、静岡（清水）のファンを増やします。
- 遊覧船での清水港回遊、イルカウォッチング体験を通して「海の豊かさを守る」という視点での環境問題の意識を高めます。
- ドリームプラザという商業施設がある事で、講座・販売・食事等の提供が可能となり、水産物・農産物等の地元企業と幅広く手を組む事ができます。

**5. 取組が開始されたきっかけと展開**  
コロナ感染拡大を受け、修学旅行が遠方から近場への行先変更という追い風の中、ここ清水は、宿泊施設が少なく、休憩場所としての利用でしか滞在しないという課題がありました。そのような中、修学旅行プランを企画していた「富士山清水港クルーズ」から、「ドリームプラザ」に清水の誘致に繋がるSDGs学習プログラムの相談がありました。私達は、地元でSDGsを実践している企業と組む事で、「静岡独自のSDGs学習を提供でき、同時に、地域資源の活用による地域再生への取組になると考えました。そこで、ドリームプラザでツナ缶を販売している「伊豆川飼料」に着目しました。伊豆川飼料は、水産業と農業の循環産業に対し危機を感じ、問題提起のきっかけとなる新しいツナ缶を開発し、独自で啓蒙活動をしていました。連絡を取ったところ、「出来るだけ多くの人に幅広く伝えたい、子供達にも伝えたい。子供達に身近な食をテーマにして静岡の産業に興味をもってもらえたらいい。」という思いを持っており、今回のプロジェクトに快く参加の承諾を得ました。小中学生に普段の生活でなじみのある「ツナ缶」や、非日常を味わえる船の旅、持続可能な地域活性化を基本理念とする商業施設、をセットとする、清水ならではの「海の街でまなぶ小中学生からのSDGs」修学旅行プランの立案、実施となりました。

①清水の名産「ツナ缶」を通じた「食の循環」SDGs講座  
②フードロスの削減を実施、地元の食材を調理した食事の提供  
③清水港遊覧を通して、富士山、三保の松原、駿河湾を五感で感じながら「海と共に発展した清水港」を堪能し、環境問題に対する意識を高める体験の提供

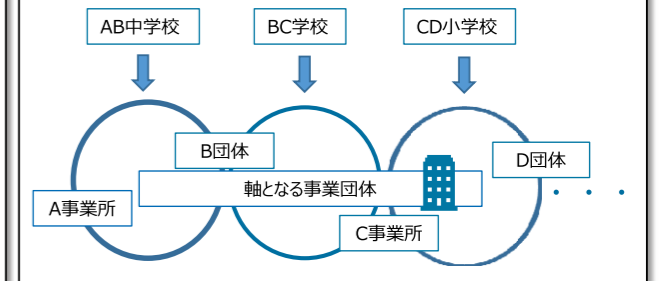
<実施校>	5月13日	山梨県都留市東桂中学校	61名
	5月23日	三重県多気町松阪市学校組合立多気中学校	33名
	6月2日	滋賀県多賀町立多賀中学校	30名
	6月9日	滋賀県彦根市東中学校	72名

※2023年6月 上記学校から2校の申込みを頂いています。

**6. 応募した取組の今後の計画・展開**

- 県外の修学旅行にとどまらず、県内の学校団体への「SDGs講座」としての参加を促していきます。この取組を通じて、県外だけでなく地元の子ども達にも「海の街 清水」の魅力に気づいてもらい、住み続けたい街に育てていきます。
- 継続的に来ていただけるように、新たにSDGsに取り組んでいる企業と積極的に協力して修学旅行プランの可能性を広げていく予定です。また、参加した生徒達の感想やその後の活動を聞いて、内容の充実を図ります。
- 旅行会社と組んで、「静岡ならではのプラン」として全国に広める動きをしています。また、企業・団体の視察旅行向け「大人が学ぶSDGs」も考案中です。
- SDGsのゴール2030年にかけて、海洋文化施設や日の出エリアの開発を進める静岡市において、新たな街の魅力を発信すると共に、この教育プランの参加者が家族とまた清水に来てもらえるようなエリアPRを積極的に行っていきます。

**7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**  
この取組に農業・水産業・加工業など静岡・清水に関わる事業者全て参加可能です。さらに、行政・地域団体が関わる事で、全国に対してこの「修学旅行プラン」の信頼性も高まり、全国の教育機関への多くの関心を得る事ができます。参加事業者が増えることで内容が充実し、アレンジ可能な教育旅行を展開でき、継続的な実施が可能となります。企業にとっては、新しい目標にチャレンジできる幅の広い活動が出来るようになり、併せて、この修学旅行プランがSDGsの成果発表の場となり、自社の活動を振り返ることができます。



教育現場からのフィードバック、子供達の考えるSDGsの課題に対する取組を実現する事業所が生まれ、それがこの修学旅行プランに加わる可能性も大いに考えられます。

また、他の地域でも事業所・団体が真似しやすく、汎用性も高いと考えます。ドリームプラザの様に軸になる事業団体があれば、それぞれの地域産業に絡めたSDGs教育プランを作り、地元を広める事が可能になります。小さく始めた活動でも全国各地で輪が大きく広がること、継続しながらその輪の繋がりをさらに大きくして、より良い社会を実現することを目指します。



生命保険販売を通じた共同寄付による地域貢献活動

フコクしんらい生命保険株式会社 × しずおか焼津信用金庫

**1. 取組概要**  
しずおか焼津信用金庫においてフコクしんらい生命の特定の保険商品を販売することで、SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」と、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」に繋がる活動をしております。また、対象の保険商品の販売件数1件につき1,000円を地域貢献のための寄付金として両者がそれぞれ拠出し、しずおか焼津信用金庫の所在する地域の公共性・公益性の高い組織に対して寄付します。上記のように「SDGsの達成」および「地域貢献」の2つを目的とした活動を行っております。

**2. 該当するSDGs目標**

3 3. すべての人に健康と福祉を	生命保険の販売を通じて、お客さまの健康と福祉に繋がる保障を提供しております。今回の活動の対象となる「ハローキティの定期保険」は、がんや介護、認知症への保障を付加することができる保険商品となっております。
17 17. パートナーシップで目標を達成しよう	フコクしんらい生命としずおか焼津信用金庫がパートナーシップを組んで保険を販売することで、信用金庫の所在する地域で暮らす方々が安心して暮らせる福祉が受け取ることができます。2021年度の取組では、しずおか焼津信用金庫において、合計88件の対象商品を販売いたしました。

**3. 取組イメージ**

**4. ポイント**  
「SDGsの目標達成」に加えて、公共性・公益性の高い組織への寄付による「地域貢献」も行っている点がポイントになります。保険に加入したお客さま、フコクしんらい生命・しずおか焼津信用金庫、寄付先が、保険商品を通じて連携し、地域に貢献することができる活動となっております。

**5. 取組が開始されたきっかけと展開**  
フコクしんらい生命のパートナーである信用金庫とともに、SDGsの目標を達成し、さらに信用金庫の所在する地域への貢献ができないかと考えた結果、当活動が誕生しました。しずおか焼津信用金庫にも本活動の趣旨にご賛同いただき、保険商品の販売・寄付先の選定・寄付といった一連の活動を共にしております。  
2021年度は、対象商品となる「ハローキティの定期保険」を88件販売しました。販売件数1件につき1,000円を寄付金としてフコクしんらい生命としずおか焼津信用金庫がそれぞれ拠出し、合計で176,000円を静岡県内の「子どもの居場所 応援基金事業」へ寄付いたしました。

**6. 応募した取組の今後の計画・展開**  
2022年度も本活動を継続実施することが決まりました。  
今後はさらに販売件数を増加させていくことで、SDGsの達成および地域貢献に寄与していきたいと考えております。そのために、実際に保険を募集する信用金庫の職員の方々に対して、募集品質をさらに向上させるための研修の実施を計画しております。  
今後も静岡県内外を問わず、本活動にご賛同いただける信用金庫をさらに増やしていきたいと思っております。(2022年8月末時点では、全国で20の信用金庫と共に本活動を実施しています。)

**7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**  
私たちの活動では、保険商品を対象とすることでSDGsの達成を目指し、さらにその販売件数に応じて地域貢献への寄付を行いました。本活動を分解すると、  
①SDGsの達成に繋がる商品・サービスを製造者と販売者が協力して販売。  
②販売数に応じた金額を製造者と販売者がマッチングギフト形式で寄付を行い、地域貢献をする。  
というスキームに単純化できます。このスキームは、我々のような保険業と金融機関という組み合わせだけでなく、製造業やサービス業等あらゆる業界・業種において応用できると考えております。

SDGs健康増進プログラム セイリン PRESENTS 「ハッピーシニアプロジェクト」～運動とはり健康に～

(株)エスパルス × セイリン(株) × 静岡市

**1. 取組概要**  
60歳以上のシニア年代を対象とした運動教室を静岡市にて今年度より開催。1時間ほどのプログラムで、運動の前には鍼灸商品によるツボ刺激体験を実施し、運動と鍼灸両面から健康の維持増進をサポートしています。運動教室では、アイスブレイクで身体と気持ちのウォーミングアップを行い、少しずつ脳への刺激を高めています。その後、2つの単純な動作を組み合わせる運動で身体と脳に刺激を与える内容や、身体が温まる運動、身体運動の基礎となる歩くために大事な筋力を鍛える運動を行い、最後に走るのもぶつかるのも禁止のウォーキングサッカーを楽しみます。

**2. 該当するSDGs目標**

3 3. すべての人に健康と福祉を	心身の健康と頭の活性化及び“楽しい”コミュニティーの場をご用意し、生涯現役で楽しく生活していけることを目的とした様々な運動プログラムを提供する活動です。年間12回開催します。
17 17. パートナーシップで目標を達成しよう	協働者それぞれの強みを生かして、参加者により価値のある活動を提供しています。

**3. 取組イメージ**  
運動と鍼灸両面から健康の維持増進をサポート

**4. ポイント**  
シニア世代の方が集える場をご用意すること、そこで運動と鍼灸両面から健康をサポートできることがポイントです。

**5. 取組が開始されたきっかけと展開**  
「運動」と「健康」の側面から少子高齢化社会という社会課題に対してアプローチすべく、シニア世代向けの運動教室を今季よりスタート。クラブの優先SDGs項目である「3. すべての人に健康と福祉を」に新たな視点からアプローチを始めました。  
クラブの強みである人材（サッカースクールコーチ）、運動プログラム（サッカースクール等）、会場（屋根付き人工芝）を活用し、実施内容を決定。  
セイリン様のサポートが加わり、身体の様々な部位にこりや痛みを抱えているシニアの皆様に鍼灸の面からもアプローチが可能となりました。

**6. 応募した取組の今後の計画・展開**  
現状、月1回程度の活動頻度。  
参加者の皆様は毎回この活動を楽しみにしており、新規参加者も回を重ねるごとに増えています。  
今後はより多くの皆様に参加いただけるよう、頻度や開催場所の拡大を検討しています。

**7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**  
「シニア」、「運動」、「健康」といったキーワードに関連する活動は多岐に渡ります。また、現在活動している皆様は比較的アクティブに生活されている方が多いため、同じ活動でも世代やターゲットを変えることで汎用が可能だと考えています。



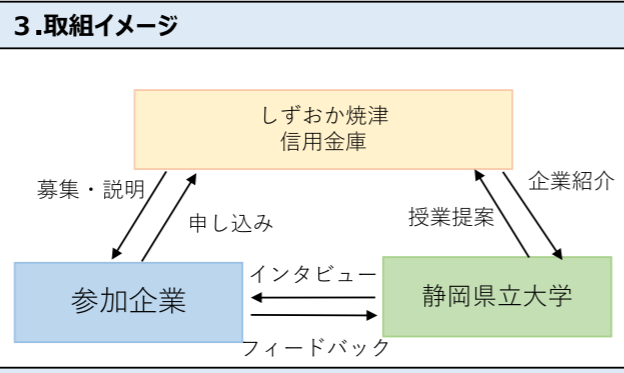
# SHIZUOKA SDGs Action!2021 SDGs学生インタビュー

## しずおか焼津信用金庫 × 静岡県立大学 × SDGs推進企業

**1. 取組概要**

静岡県立大学の学生が「フィールドワーク」授業の中で、企業に対してSDGsをキーワードにインタビューを行う大学生と企業の交流企画です。静岡県立大学の国際関係学部の学生たちが直接企業とやりとりを行い、企業の取り組むSDGsについてインタビューを行った後、内容をチームでまとめ、授業最終日に報告会を行います。  
 [(五十音順)㈱あいネットサービス、㈱イーシーセンター、㈱小野田産業、㈱きんぱら、空き家買取専科㈱Sweets Investment、スマートブルー㈱、ナガハシ印刷㈱、西光エンジニアリング㈱、日興美術㈱、㈱ピーエーシー、(福)天心会 特別養護老人ホーム竜川園、㈱LIFEAT.]

- 2. 該当するSDGs目標**
- 4 質の高い教育をみんなに  
学生がフィールドワークの授業内で企業が取り組むSDGsの取組を学び、地域課題の解決に結びつく発見や、SDGsへの理解を深めることを目指します。また、学生が直接企業とやりとりを行い、日程の調整などを行うことで、社会で必要となるスキルを培う機会にも繋がります。
  - 11 気候変動に具体的な対策を  
学生がSDGsの取組を知ることを通じて、地元企業の魅力発見や学生の地元志向の向上を目指します。企業は学生目線での自社の魅力や自社の強みを再確認し、さらなる地域貢献機会の創出に繋がります。
  - 17 パートナーシップで目標を達成しよう  
「学・民・金」の連携を強化し、SDGs・地方創生のモデル事業として地域内外に広くPRすることを目指します。



**4. ポイント**

SDGsに興味関心のある学生と、SDGs推進企業とを金融機関が仲介し、大学、企業、金融機関の3者が連携して行っています。インタビューを行った後、学生はその企業についてのリーフレットを作成し、報告会で発表します。参加企業はインタビューや報告会を通し、学生目線での自社の魅力や、感想などに触れることができます。

**5. 取組が開始されたきっかけと展開**

地元企業はそれぞれが特色のあるSDGsの取組を積極的に行っているにも関わらず、大々的な情報発信が難しい側面や学生との交流、就職に繋がる機会へのニーズがあります。地域金融機関としては、各種団体と横断的に関わり、新たな連携を生み出す役割を推進する中で、どのように企業の情報発信に携われるか検討していました。新聞に静岡県立大学湖中教授のSDGsに関する記事が掲載されたことをきっかけに、2021年3月にSDGs交流企画についてご相談させていただき、湖中教授が受け持つ国際関係学部のフィールドワークの授業内で、学生たちがSDGsをキーワードにSDGs推進企業にインタビューすることをご提案いただきました。学生自身もコロナ禍で外部との関わりが少なくなっていたため、それぞれのニーズが合致した連携企画になりました。2021年度はコロナ禍ということもあり、対面での交流はほとんど出来ませんでした。オンライン方式を進めることにより、コロナ禍でも学生と静岡の中小企業が交流できる機会を創出することが出来ました。

**6. 応募した取組の今後の計画・展開**

2022年度も継続して同様の企画を行います。2021年度同様、履修学生は60名程度、参加企業も10社以上申し込みがあり、同規模での実施が可能な状況となっております。社会情勢に沿った対応にはなりますが、2022年度は対面での実地インタビューを予定しており、昨年度よりもさらに充実した内容に出来るのではないかと考えています。また、企業のニーズに応え、学生の企業見学やインターンシップへの参加等への案内も行う予定です。将来的には、さらに学生と企業を繋ぎ、SDGsを軸に静岡のさらなる発展に貢献できるような取組の提案を行っていきたく考えています。

**7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**

企業、学生が持つそれぞれのニーズを上手く組み合わせ、連携した一つの企画としている点です。仲介を金融機関が行ってありますが、自治体、団体等、様々な方が繋ぐ役割に入れる汎用性の高い企画だと考えています。社会に出る学生たちは企業との関わりを求めている一方、なかなか企業に触れる機会がありません。地元企業が具体的などのような取組を行っているかを知る機会を提供することで、地元企業の魅力を知ってもらうほか、今後静岡での就職を考えるきっかけに繋がり、企業も学生に向けた情報発信や、雇用に繋がれる機会となります。SDGsは就職活動で学生が企業を選ぶ際の判断基準の一つになってきている中で、積極的に取組を始める企業も年々増えています。学生との交流を通してさらなる発展をしていく企業をモデルケースとし、そこに倣ったさらに多くの企業が積極的に推進を行っていくことで、静岡全体としての大きな成果に繋がると考えています。

# Smile~SDGsで笑顔届けたい~ (「S」mile : SDGs・Smile・Student・Social・Shizuoka)

## 高校生 × 一般社団法人しずおかビジョン研究所 × ナガハシ印刷株式会社

**1. 取組概要**

人と人の出逢いや繋がり“縁”を大切に、その繋がりを“円”にして笑顔を作っていく、「Smile」が連携を形成していく“かすがい”的役割の一助を担えるよう、小中学生や親子向けにSDGsの想いを伝えていくために作られた情報誌です。次世代を担う高校生が編集長となって、静岡市内でSDGs推進に積極的な企業・団体等を取材し、わかりやすく優しいデザインを織り交ぜながら編集して、静岡市への郷土愛を高めるとともに、SDGsへのアクションやきっかけの意識醸成に取り組んでいます。

- 2. 該当するSDGs目標**
- 4 質の高い教育をみんなに  
高校生が「静岡市×SDGs×○○(テーマ)」を取材・編集し、小中学生向けのSDGs情報誌を発行することで、保護者を含めたアクション(実践)への意識を醸成し、次世代育成に繋がります。
  - 11 気候変動に具体的な対策を  
次世代育成とともに、SDGsアクションを促進することで、静岡市の持続可能なまちづくりに貢献していきます。
  - 17 パートナーシップで目標を達成しよう  
高校生を中心に、取材を通じて様々なパートナーシップを構築していくことで、情報誌制作を実現しています。活動を通じて多くの連携が生まれ、今後の活動へと繋がっていきます。



**4. ポイント**

次世代を担う高校生が明確な目的意識をもってパートナーシップを形成しながらSDGsの普及啓発活動に取り組んでいることがポイントです。若年世代が問題意識をもって行動していくことが非常に大切であって、本取組はその一助を担えていると思います。

**5. 取組が開始されたきっかけと展開**

公益社団法人日本青年会議所が毎年実施している「JCI JAPANグローバルユース国連大使」に2021年度参加していた高校生が発起人としてスタートしたのが本プロジェクトです。静岡市ではSDGs認知度は年々上がってきていたのですが、理解度は低く、2030年までに持続可能でより良い世界を実現させていく必要があり、今後は「認知」から「行動」へのフェーズ移行が求められていると感じた彼女は、「行動」へのフェーズ移行のために、SDGsが自分事としての課題として「共感」を抱き、内容を「理解(納得)」する過程が欠かせないと感じていました。そこで、「行動」へのフェーズ移行のために、情報誌を通じて「共感」を抱かせ、「理解(納得)」してもらうことを目的に取り組んでいます。

**6. 応募した取組の今後の計画・展開**

まずは、この制作したSDGs情報誌「Smile」を一人でも多くの人に読んでいただき、アクションへと繋がるように広報や情報発信に取り組んでいます。そして、今後は本活動が一過性のものとして終わることのないように継続していくことを目指し、将来的にはこの取組が各地各世代で自然発生的な運動となって継続的に取り組まれていくことを目標に推進していきます。また、それらの取組が正当に評価され、取り組む人たちの目標となるように「Smileアワード」を毎年実施(初回:2022/4実施予定)を目指して、次世代を担う多くの学生やSDGsに取組む青少年たちに未来への夢と希望を提供していくことを目指していきたいと考えています。

**7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**

静岡市内では、SDGs実践へとアクションに取り組んでいる企業や団体などがまだまだ数多くあり、「静岡市×SDGs×○○(テーマ)」で取り上げきれなかった取組が沢山ありました。今回のプロジェクトでは、クラウドファンディングやパートナーの支援による限られた予算内での制作だったため、試験的な取組となりましたが、今後はスポンサーなども募集し、持続可能な取組にしていくことは可能であると考えています。SDGsのフェーズに合わせた内容を、高校生などの学生が中心となって取材・編集・発行していくことを通じて、青少年育成だけでなく、郷土愛やアイデンティティ醸成を継続し、本市が世界に輝くSDGs最先端都市となる一助を担っていきたくと思います。



# ホームタウン次世代育成プロジェクト エスプラス

(株)エスプラス × (一社)プロフェッショナルをすべての学校に × 静岡市他 × 協力企業5社

<p><b>1. 取組概要</b></p>	<p>サッカーのまち静岡ならではの授業で『地域愛』を醸成し、人口減少・若年層の県外流出に解決の糸口を！小さな一歩が地域の大きな未来に！エスプラスでは、地域課題である『人口減少』に取り組むべく『エスプラス』に様々なものを『プラス』し、皆で持続可能な地域を創るという意味を含めたキャリア授業『エスプラス』を産学官連携で展開しています。</p> <p>企業編の授業では、テーマ①「サッカーやエスプラスを通して地域（会社・市民）との関わりを考えよう」でクラブと企業・地域のつながりを考えながら、誇るべき地元企業を知ることで郷土愛を育み、テーマ②「働く大人から社会に出て必要なチカラを学ぼう」で多様化する社会で求められる地域と連携したキャリア教育を提供。企業の社会課題やSDGsへの取組も内容に含み、児童生徒とクラブ、社員が対話をしながら授業を進めています。</p>
<p><b>2. 該当するSDGs目標</b></p>	<p>2011年～2021年に本プロジェクトを静岡市内小・中学校にて延べ156校、富士市・富士宮市内にて6校実施。2022年度は静岡市15校（うち企業編 4社8校）、富士市・富士宮市9校（1社4校）にて約2,000名の児童生徒へ展開中。</p>
<p><b>3. 取組イメージ</b></p>	
<p><b>4. ポイント</b></p>	<p>クラブが取り組むホームタウン活動の一環として、地域課題である『人口減少』に少しでもクラブが貢献すべく、クラブの強みである発信力や人を巻き込む力で持続可能な地域まちづくりに努めています。</p> <p>「企業が直接学校や児童と関わることでできる貴重な機会、小学生のSDGsへの意識の高さに驚き、また自らの仕事や地域について改めて考えるきっかけとなった」といった企業の声や、「地元の企業のすごさに気づき、地元で働きたいと思った」という児童の感想、長年の継続事業を4者連携で拡充した良い例であるといった行政の評価より、協働者にとっても実りある活動となっています。</p>

**5. 取組が開始されたきっかけと展開**

エスプラスでは2011年より静岡市・静岡大学と連携し、ホームタウン次世代育成プロジェクト「エスプラスドリーム教室」を開催し、地域に根付いているサッカーを算数や理科に取り入れ、子どもたちの学習への興味や関心の向上を図ってきました。教室を継続して9年、事業としてはホームタウンに浸透しているもの、もっと地域に寄り添った授業が展開できるのではと可能性を感じていました。

人口減少はホームタウン静岡市でも深刻な問題。特に若年層の県外流出が主因で、県内高校生の約72%が県外大学へ進学、首都圏進学者のUターン率も38%（2019年）と低く、県内への就職促進が課題となっています。

地元企業にとっても将来の担い手不足は深刻な問題です。ここ静岡・清水には世界にも誇るべき素晴らしい企業がたくさんあることを子どもたちに知ってもらいたい、地域愛を醸成し、将来いつかまた地元で働きたいと思う子どもを育てたいという企業とクラブの想いが一致し、2020年よりプロジェクト名を「エスプラス」としてクラブが地域教育のコーディネートする新たな授業をスタートしました。2021年からはファミリータウンである富士市、富士宮市でも授業を展開しています。

授業監修は引き続き静岡大学に依頼し、教育委員会へのヒアリングからSDGsについて（企業が取り組むSDGsの紹介）も授業内容に組み込んでいます。

**6. 応募した取組の今後の計画・展開**

地元企業への就職をより現実的なものにするために、今後は高校や大学にも対象を広げ、企業課題を学生と一緒に解決したり、会社見学とセットにした授業を行う等、クラブがハブとなり学生と企業の距離を縮める活動を検討していきたいです。

また、ICTを活用した遠隔授業等にも取り組みたいと考えています。

Jリーグクラブならではの取組として、エスプラスのホームタウン静岡市の子どもたちが地域の魅力を学び、他クラブのホームタウンの子どもたちへ発信したり交流するよう、新たな地域愛醸成の教育プログラムも今後展開していきたいと考えています。

**7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**

教育現場で求められる様々なニーズにJリーグクラブとして出来ることを模索し、行政や教育機関と連携し、取り組んでいきたいと考えています。

Jリーグ開幕25周年を迎えた2018年、Jリーグが世の中に発信したメッセージは「Jリーグをつかおう!」です。

地域に根差したホームタウン活動を行うクラブは、地域とのつながりをさらに深く、その思いを共有できる仲間とともに、共通の課題を解決し、地域の笑顔を増やすための活動「Jリーグ社会連携活動 シャレン!」に取り組んでいます。

社会問題(地域課題)の解決へ地域と共に取り組む。解決への鍵は「地域と共に取り組む」こと。S-PULSEは、クラブの強み(人材、設備、パートナー企業など)を生かしたプログラムの提供を通じて、地域課題の解決に貢献する。

地域と共に未来につなぐ ～スポーツの力で持続可能な社会へ～

# 働くことで住みたくなる、子連れ出勤がHubになる多世代交流Cafe

NPO法人クオーレ × ママの働き方応援隊 豊橋校

<p><b>1. 取組概要</b></p>	<p>働きたくても働くことが難しい乳児・幼児の母親20人で多世代交流Cafeを運用しています。また、ライフポートとよはし館内というスケールメリットを生かし、短時間シフト、子連れ出勤可という子ども優先な働き方、及び子ども店員体験、障害者の就労実習の受け入れなど、インクルーシブな場として活用しています。本取組を通じて、親、子供の社会的孤立を防止し、生活していきたい地域づくりを目指します。</p>
<p><b>2. 該当するSDGs目標</b></p>	<p>企画段階から働きやすさを検討することで合理的配慮を模索しています。女性団体で仕入れから提供まで行い、外部イベントでの交渉等を行うことで、社会的孤立しがちな子育てママたちの社会的活躍を可能とします。延べ22人の雇用を生み出しました。また子ども店員体験は男女関係なく同じ仕事を担当しています。延べ40人が体験しました。</p>
<p><b>3. 取組イメージ</b></p>	
<p><b>4. ポイント</b></p>	<p>企画段階から働きやすさを検討することで合理的配慮を模索しています。女性団体で仕入れから提供まで行い、外部イベントでの交渉等を行うことで、社会的孤立しがちな子育てママたちの社会的活躍を可能とします。延べ22人の雇用を生み出しました。また子ども店員体験は男女関係なく同じ仕事を担当しています。延べ40人が体験しました。</p> <p>規格外仕入れを含めて、農家の生産者と、消費者をゼロ距離にします。また、自ら仕入れに行くことで実際に仕事をしていくために必要なコミュニケーションスキルを身につけます。また、親子、子どもが参加できるワークショップを多数行い、先進的なワークショップを行う講師の収入面を支え、作家さんの作品の買い支えを支援します。</p> <p>地域資源のハブとなり、子育て世代がオフラインで支援を受ける居場所づくりとして機能しています。従業員、お客さんがインクルーシブな関係性として共食し、一緒に遊ぶ一方で、子ども店員を通じて社会に参画する場として機能しています。子育て世代が主として活用するInstagramの予約でフードロス削減し、仕入れも規格外を優先して活用しています。</p>

**5. 取組が開始されたきっかけと展開**

豊橋市「文化のまち」づくり課から2021年3月に受託し、コラボ先探しの一環で、ママの働き方応援隊豊橋校様と打ち合わせしました。ターゲット層となる来客者目線で15時までの営業を考えていましたが、子どものお迎えを考えると14時までが良いと提案を受け、急遽営業時間を14時までにして開業しました。随時20人程度のスタッフがいるため、東三河の農家とのつながり、地域の社会的資源とのつながりが多々あり、季節ごとの仕入れやワークショップを実施することができます。

自身が子育てでママだからこそ感じていた不安を解消する情報を満載したInstagramをほぼ毎日展開しており、お子様連れの初の外食で当店を選んでもらえるなどの高評価を得ています。現在はママの働き方応援隊豊橋校様がスタッフの過半を占めていますが、障がい児の親やヤングケアラーなどの雇用開始を行い、当事者同士の居場所として発展を目指します。

**6. 応募した取組の今後の計画・展開**

① ライフポートとよはし館内の館内デリバリーの拡大 104Cafeを目的にライフポートとよはしを選んで会館予約する団体を増やし、豊橋市における文化イベントを支援します。

② デリバリーの拡大 スポーツイベントの弁当など、参加者の食の面をサポートします。

③ 多世代交流Cafeならではの居場所づくり 不登校の方のインターン体験などを通じて、自宅でも学校でもプリースクールでもない第4の居場所を提供し、希望者を福祉につなぐサポートを行います。

④ 働くことに困難を抱える方の実習受け入れ、雇用の拡大 ジョブコーチ、キャリアコンサルタントのサポートを行います。

**7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**

飲食店が抱えている社会課題は、当事者のペルソナを通じて解決!

やりたいことがある 活動の場がない 人手不足 余力不足

登録制マッチングサービス

その日の朝にならないうと、働けるかどうか 急な欠勤者が当日の朝に判明したかわからない(子供の発熱等)

販促対応

在宅におけるSNS運営 ダブルチェックの側面を持たせる

勤務時間内の更新がむづかしい 上役とのチェック体制など

ゴーストキッチン

オフライン活動の可能性が広がる 規格外野菜の活用

ピークタイム以外の売り上げ確保 インフルエンサーの確保

コラボ事業としてマルシェ出店 コラボ事業として店内イベント

社会課題と同じとする市民団体等と コラボして、専用のメニュー、活動を通じて、スタッフ教育を行う 当日の運営を委託する

コンセプトを打ち出した飲食店はコアなファンが付き、SDGs目標を達成するHub機能を設けることができる

本取組の特徴は、ペルソナ×社会課題のマッチングです。働くことに困っている人を雇用することで、結果的にその会社の社会課題や、やりたくてもやれていなかったことを解決していきます。※本事業で最も重要視すべき点は「当事者の互助」を引き出し、自らがHubになることで、ムーブメントを引き出すこととなります。1人のペルソナからSDGsへの柱を作ります。



## SDGsに取り組む企業・団体の組織発足による相互連携

静岡信用金庫 × 企業 × 三井住友海上火災保険(株) × 静岡県地球温暖化防止活動推進センター × (公財)静岡県産業振興財団 × (公財)ふじのくに未来財団 × 地元自治体	
<b>1. 取組概要</b>	SDGsに取り組む企業・団体の連携を図り、実効ある経営に繋げるための組織SSC (Shizuoka SDGs Community) を令和4年3月に発足しました。SDGsに取り組む様々な業種を対象としており、当金庫の取引企業50社以上が加盟しています。また、三井住友海上火災保険(株)、静岡県地球温暖化防止活動推進センター、(公財)静岡県産業振興財団、(公財)ふじのくに未来財団、地元自治体にオブザーバーとしてご参加いただいております。SSCでは、会員交流機会の創出、会員企業の取組強化を支援する活動を行っています。
<b>2. 該当するSDGs目標</b>	<b>3. 取組イメージ</b>
9 産業と資源効率の改善につなぐ 資源利用効率の向上や環境に配慮した技術・産業プロセスの導入を通じ、地域の持続可能性向上を目指します。	
12 つくる責任 相互連携により、廃棄物の再生利用・適正処理を進め、当地域における廃棄物の削減を推進します。	<b>4. ポイント</b>
17 パートナシップで目標を達成しよう 異業種の事業者・団体が連携することで、当地域におけるSDGs取組を推進するとともに、各企業・団体にとって実効ある活動を目指します。	チャットサイトを介してSDGsに関する情報提供や会員企業紹介を行っています。また、定期的に情報交換会を開催し、会員企業が実施しているSDGs取組のPR、課題、連携したい業種などについて意見交換を行い、会員企業の課題解決に繋がります。

5. 取組が開始されたきっかけと展開		
当金庫はこれまでSDGsに関する基礎情報の提供や宣言書の作成支援などの導入支援を行ってきました。そうした活動の中で、SDGsに取り組む企業を組織化することで、経営力・収益力の強化といった本業支援ができないかと考えたのがきっかけです。SSCには現在55社の会員企業に加盟いただいております。その中には社内でプロジェクトチームを組成して取り組んでいる会員企業もあり、当金庫が従業員向け勉強会を開催するなど支援を行っています。		
背景	目的	目指すもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの必要性</li> <li>実効ある取組の必要性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互連携による課題解決力の強化</li> <li>SDGsへの取組を通じた経営力強化の実現</li> <li>SDGsの普及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs取組による会員のプレゼンス向上</li> <li>SSC事業の活性化</li> <li>地域の持続可能性向上</li> </ul>

6. 応募した取組の今後の計画・展開	
情報交換会などで生まれた企業間連携に繋がる情報のアフターフォローを行っています。また、引き続き会員増強に努め、取組の輪を広げて持続可能な社会づくりに貢献していきたいと考えております。また、SSC会員企業による共同PRなども検討していきます。 【SSCで生まれた連携事例】	
<b>事例1 再生プラスチックの活用</b> 産業廃棄物処理業者が回収した民生機器に使用されているプラスチックを、製造業者が破砕→ペレット化→部品成形のトライアルを行っている。製造にあたっては、パーজন材よりリサイクル材の方がコスト低減に繋がると試算している。	<b>事例2 プラスチック廃材のリユース/リサイクル化</b> 製造業者が排出する、塗装や基盤が混在するプラスチック廃材や、処理に高額な費用を要する廃材について、産業廃棄物処理業者がリユース/リサイクル化の可能性を検討を行う。
<b>事例3 産業廃棄物選別ラインへのコンプレッサー活用</b> コンプレッサー製造業者が提供するコンプレッサー設備を、産業廃棄物処理業者の風圧分別に活用できないか検討を行う。	<b>事例4 障がい者アートへの参加</b> ディスプレイ製作業者が推進する障がい者アートに、障がい者支援を行うNPO法人と公園施設の設計施工業者の2社が連携できるか検討を行う。

7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント	
<ul style="list-style-type: none"> <li>SSCへの入会は、SDGsに取り組む意向のある企業・団体であれば業種は限定しておらず、広く参加しやすい組織となっています。</li> <li>行政の各種施策や業界動向など、整理しづらい情報を取り纏めて発信するプラットフォーム的な機能も有しており、多くの企業が有効活用できる情報を提供することができます。</li> <li>他の組織との連携にも積極的に対応し、パートナーシップによる課題解決力の強化を身上としています。</li> </ul>	
	【SSC発足式の様子】
	【情報交換会の様子】

## 誰もが輝ける社会を目指して！楽しみながら学べる『SDGsかるた』の製作と活用

加山興業株式会社 × 障がい者支援施設 シンシア豊川	
<b>1. 取組概要</b>	SDGsに対して真摯に取り組んでいる加山興業株式会社が地域の障がい者支援施設シンシア豊川と連携して、『SDGsかるた』を製作しました。かるたの絵については障がいのある作家の方が描き下ろしており、かるたの普及によってノーマライゼーション（誰もが自分らしい生き方を追求できる理想の社会）の実現に貢献しています。拠点を置く名古屋市や豊川市とも連携し、市内の全小学校・特別支援学校へ教育ツールとして活用いただくなど普及しており、ESD教育の底上げにも貢献しています。
<b>2. 該当するSDGs目標</b>	<b>3. 取組イメージ</b>
4 質の高い教育をみんなに SDGsの17の目標について世界の課題や解決方法が学べる教育ツールとして、小・中学校や特別支援学校など計303校でご活用いただいております。将来を担う子どもたちがSDGsの理解を深め、自分事として考え行動できるように取組を推進しています。	
8 働きがいも経済成長も 今回製作に携わった障がいのある2名の作家の方々にとって社会と関わる機会となり、多くの人にかかるたの絵を楽しんでもらうことで、作家の方のやりがいにも繋げることができます。	図1: 製作したSDGsかるた 図2: SDGsかるたの絵を描いた山崎さん(左)と鈴木さん(右) 図3: 自治体を通じた教育機関へのSDGsかるたの提供 図4: SDGsかるたを実際に活用している様子
10 人や国の不平等をなくそう 障がいの有無に関係なく、かるたの普及を通して芸術的な価値が評価されることで、社会的に立場が弱い人たちの生活を通常の社会環境に近づけ、誰もが自分らしい生き方を追求できる理想の社会の実現に寄与しています。	<b>4. ポイント</b>
かるたの絵は障がいのある作家の方に描いていただいております。芸術を通して社会の多様性を表現しています。製作したSDGsかるたは、SDGsについて楽しく学べる内容になっており、かるたが普及することで誰もが自分らしい生き方を追求できる社会の実現やESD教育の促進に繋がります。	

5. 取組が開始されたきっかけと展開	
加山興業株式会社は、廃棄物処理や環境保全など環境課題解決のプロとして、未来を担う児童生徒にごみや環境への問題意識を持ってもらうために2012年より環境授業を開始しました。一方で、環境問題をはじめ社会には様々な課題があり、解決するためには社会全体で取り組む必要性があるため、現在では包括的なESD教育の取組を推進しています。児童生徒にとって身につくには能動的に学んでいただく必要があり、加山興業ではこれまでごみに関するマンガやSDGsすごろくなど、楽しみながら学べる教材の製作を行ってきました。その中で、社会の課題に取り組みつつ、より多くの人を巻き込むことを目的に、地域で元々交流のあったシンシア豊川様と共同で製作したのがSDGsかるたでした。これまで自治体を通じた教育機関への提供、クラウドファンディング、一般販売によって400個以上を供給しており、取組による「輪」が徐々に広がっています。	
6. 応募した取組の今後の計画・展開	
寄贈した教育機関では既に教育ツールとして活用いただいておりますが、一般にもインターネット上や展示会出展時に販売しており、引き続き普及を促進することで作家の方のモチベーションやノーマライゼーションの実現に寄与していきます。また製作した教育ツールの活用として、SDGsに関する児童への読み聞かせイベントにおける活用など、加山興業が従来行ってきたESD教育における新しい取組として展開を模索しているところです。また今後もシンシア豊川様と引き続き連携を行っていくことで、ESD教育の底上げについて継続的に貢献をしていきます。シンシア豊川様と共に情報や手法をアップデートすることで、様々な視点・アプローチから地域を巻き込んだ形での課題解決やそれに向けた新たな教材の開発やイベントの実施をしていくことを検討しています。	

7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント	
今回の取組では、同地域における組織間の協働事例であることから地域への貢献・活性化という点で、地方発でも取り組むことができた事例となっています。また、名古屋市や豊川市など、関連する市区町村を通して教育機関への寄贈を行うといった、官民連携に繋がった取組事例でもあります。取組自体は世界共通の目標である「SDGs」を共通言語にしたものであるため、同じ社会課題の解決を目指した事業者同士の連携事例として、他の事例にも当てはめることができます。SDGsかるたの製作にあたっては、クラウドファンディングに参加することで資金調達を行いました。他の団体でも取り組む際の障壁をなくす手段の1つとして参考にしていただけたかと思えます。またクラウドファンディングを利用したことで、結果的に資金調達だけでなく、より多くの人を巻き込むことができ、応援コメントが寄せられるなど反響が多くありました。	
	【クラウドファンディング実施の結果】
また、SDGsかるたは教材として様々な場面で活用いただくことが可能であり、他の団体もSDGsかるたを活用することによって、ノーマライゼーションの実現やESD教育の促進について共に貢献することができます。	



『モルックで地域も人間関係も活性化』

CWPモルック部 × なごのキャンパス モルック部 × 円頓寺・円頓寺本町商店街

**1. 取組概要**  
フィンランド生まれのユニバーサルスポーツ「モルック」の地域大会を実施し、誰もが楽しめるモルックを通じて、誰一人取り残さない世界を目指しつつ、地域活性、地域・企業連携を実行しています。モルック大会という地域住民が集う場を設けることで地域力を増し、子どもたちの運動機会と多世代交流減少課題の打破、大会参加者が商店街へ行く契機を作り経済を回し、参加者同士の理解や交流を育み、モルックを通じた教育、平和、経済、まちづくりを潤滑させる取組です。

**2. 該当するSDGs目標**

	ユニバーサルスポーツ「モルック」は、運動の得意不得意、性別、年齢等によらず、誰もが楽しめます。事実、発達障がい児の参加もあり、他者との交流により社会性を得ることに繋がり、家族間の絆も高まります。また、互いの個性や多様性の理解、モルックを通しての精神的な健康にも繋がります。
	会場とした「なごのキャンパス」は、廃校利用した企業入居型施設です。運動場の利用による地域活性や、地域住民交流が課題であり、モルックで利用することで課題にアプローチしました。すぐ近くにある商店街は、客数減少や高齢化で存続課題がある中、大会参加者に商店街を巡り経済を回す仕組みを導入し、地域の皆が集う地域活性の取組です。
	単なるスポーツ、モルック大会に留めず、参加者が楽しいのはもとより、地域や企業に意味と、価値をもたらす視点で取り組みました。各々の課題感を掛け合わせることで解決にアプローチする取組は、メンバー間の課題共有ができていた証拠と捉えています。



**4. ポイント**  
ユニバーサルスポーツ「モルック」の持つ可能性を最大限引き出して、子どもの運動機会創出、地域活性、多世代交流、多様性の尊重、家族間の絆強化、地域経済を回す、地域住民交流に取り組みました。  
※SDGsを意識した大会のため、大会の収益はウクライナ支援に充当

**5. 取組が開始されたきっかけと展開**  
CWPモルック部（CWP）が社内コミュニケーション活性化のためにモルックを活発に推進し、マスコミ掲載により「なごのキャンパスモルック部」（なごの）との交流が開始されました。ユニバーサルスポーツであるモルックの可能性と意味に意気投合し、なごのキャンパス側の課題として、地域住民との交流があったため、大会開催をCWP側から打診し、CWPが主催として大会を企画しました。  
なごの側は入居企業への協賛集め、商店街との折衝を主に取り組んでいただきました。モルックの認知度が低く、ユニバーサル性を理解してもらうには時間がかかりましたが、大会後には参加者、商店街、企業様からの評価や満足度は高かったと考えています。

**6. 応募した取組の今後の計画・展開**  
同様の趣旨を持った大会を継続的に実施していきます。今後は、商店街の中で大会をすること、祭りなどのイベント時の企画として実施することなどを視野に入れており、とにかく地域に根差した大会として、単なるスポーツ大会に留めない仕組み、仕掛けを持った大会として位置付けたいと考えています。  
この取組自体は、横展開ができるものだと考えているので、同様の課題を持つ地域、商店街等に働きかけ、全国での取組が生まれて、モルックを通じたSDGsの達成や、住みよい社会の実現に奔走します。

**7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**  
【参加できるポイント】  
・参加者としてモルックを楽しみ、参加者同士の交流により、様々な背景や個性、特徴を持った人同士で社会が成り立っていることへの理解を深めたり、多世代交流の当事者になります。  
・企業として、こうした取組に協賛すること、参加することで、SDGsへの意識として他者へPRすることができます。  
・大会主催者として、子どもの運動機会は減少しているため、モルックでまずはそれを解決する動きに取り組みます。その時に、会場や地域によっては課題を掛け合わせることで、様々な課題を同時に、並行に解決していくことができます。  
・自治体として、こうした取組を地域内で開くことに積極的に支援することで、地域が良くなり、福祉が向上します。

耕作放棄地を解消したい、そんな思いから生まれた生姜商品

丸徳商事有限会社 × ウーマン・ラボ

**1. 取組概要**  
丸徳商事では、産業廃棄物処理の一つとして、産業廃棄物の肥料化を行っています。産業廃棄物である汚泥や動植物性残渣に微生物を用いて発酵処理を行い、有機肥料に生まれ変わらせております。  
また、丸徳商事にて製造した肥料を事業所周辺の耕作放棄地になった畑で使用し、大生姜やホップ等の栽培を行っています。栽培した大生姜の一部は、ウーマン・ラボの手によって、生姜とレモンの『生姜のコンフィチュール』に加工され販売しています。今後は、コンフィチュールの下処理加工の業務委託に向け、就労継続支援事業所と調整を進めています。

**2. 該当するSDGs目標**

	産業廃棄物は、基本的には焼却炉にて焼却された後に最終処分場で埋め立てを行っています。丸徳商事では、産業廃棄物のうち汚泥や動植物性残渣から肥料を製造し、その肥料を用いて農作物を育てることで循環型社会に寄与しています。
	栽培した大生姜は、現状としてウーマン・ラボの手によってコンフィチュールに生まれ変わっていますが、その下処理を就労継続支援事業所に依頼することによって、就労の場や働き甲斐の提供をすることができます。
	肥料製造から働き甲斐の提供まで多岐に渡りますが、これらは企業が1社では到底達成できない目標であるため、他社と連携を取って取組を行うことによって目標の達成に向けて進んでいくことができます。



**4. ポイント**  
本来焼却処理を行う産業廃棄物を肥料化に移行させることによって、焼却の際に使用する化石燃料の量を大幅に減少させることができ、発生する温室効果ガスの量を削減することが可能です。

**5. 取組が開始されたきっかけと展開**  
2015年2月に丸徳商事に肥料製造施設が開設され、産業廃棄物を肥料化する事業が開始されました。後に、事業所周辺の耕作放棄地で肥料のテストが行われ、大生姜の栽培を始めました。そして、栽培した大生姜の利用先を探している際、静岡を中心に「温活」をテーマに活動をしている「ウーマン・ラボ」が製造販売している「生姜」と「日本平ソーラーレモン®」を使った「生姜のコンフィチュール（ジャム）」を知り、昨年、自社で栽培した大生姜の活用を依頼したことで、今回の取組が始まりました。  
生姜の粒々とした食感も楽しめる「生姜のコンフィチュール」は他には無く、女性を中心に徐々に注目が高まっているとのこと。プチギフトや飲食店でのドリンクメニューなど様々な形で展開されています。

**6. 応募した取組の今後の計画・展開**  
近年、担い手の高齢化、後継者不足、農産物価格の低迷、鳥獣被害の増加等、地域が抱える様々な原因により、耕作放棄地が年々増加しています。  
今後、耕作放棄地の再生に、丸徳商事の「肥料」を使用することで、土壌の改善・改良を行い、畑として「大生姜」などの栽培方法を確立していきます。それによって、耕作放棄問題の解消に寄与するとともに、引き続き、栽培した大生姜などの農産物を地域の事業者様への提供を行っていきます。  
また、その事業者様が就労継続支援事業所に業務委託することで、働く意欲と能力のある障がいをお持ちの方が仕事に就くことを通じて社会に参加し、働く喜びや生きがいを得られることに貢献し、働く場を増やしていくことにも繋がっていくと考えています。


**7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**  
現在、多くの飲食店や企業から生ゴミや動植物性残渣が廃棄・焼却されています。そのような廃棄物を焼却から肥料化へ移行させることで、いわゆるフードロスの削減や焼却に伴う化石燃料の使用量や温室効果ガスの削減につなげることができます。どんな飲食店や企業の方でも、農業や廃棄物の肥料化に関する知識を有する企業と協力をを行うことができれば、SDGs達成や循環型社会の形成への貢献が可能になります。また、食品加工を行っている企業の方であれば、生姜を使用した加工食品の製造をしていただくことで、SDGs達成に寄与することができます。  
従って、廃棄物の排出事業者としても、肥料を用いて栽培した生姜等を使用する食品加工事業者としても、参加しやすいところがポイントです。





## 農家の助けに「もったいない野菜オンライン交流マルシェ」

おおたまむらづくり(株) (あたらの里直売所) × ふくしま田園中枢都市圏 × 友好都市

<p><b>1. 取組概要</b></p>	<p>フードロスに目を向け、生産者で規格外野菜や過剰供給野菜、ひょう被害にあった果物など物流コストが合わず、廃棄せざるをえない問題を直売所がハブとなり、大玉村が締結している「ふくしま田園中枢都市圏」及び「友好都市」内の他市町村の農家に呼びかけ、東京、品川、立川、大宮駅構内にて販売や会場となる各駅をオンラインで直売所と繋ぎ、生産者や担当者が美味しい食べ方や野菜の説明等を行い、販路拡大や消費の増加を図る取組です。生産者を第一に考え、一丸となりフードロス0に向けて一緒に取り組んでいます。</p>
<p><b>2. 該当するSDGs目標</b></p>	<p><b>3. 取組イメージ</b></p> 
<p>8 働きがいも 経済成長も</p> <p>今まで廃棄していた農産物を販売することにより、生産者の意欲向上および収益増加、農業に担い手の確保に繋がっています。</p>	<p><b>4. ポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○県内外の生産者と協力し、より多くのもったいない野菜を販売することでフードロスに取り組んでいます。</li> <li>○コロナの影響で関東圏に往来が難しかったため、各駅とオンラインで直売所を繋ぎ生産者及び担当者が美味しい食べ方や野菜の説明を行い、販売だけでなく、消費を促しました。</li> <li>○輸送も新幹線輸送をすることで二酸化炭素の排出を減らす取組を行いました。</li> </ul>
<p>12 つくば責任 つかう責任</p> <p>廃棄していた規格外、過剰供給、ひょう被害にあった農産物を販売することにより、形や傷の理由により廃棄せざるをえないより多くの農産物を販売・消費につなげる取組を行っています。</p>	<p>17 パートナリシップを 構築しよう</p> <p>村内の生産者や大玉村も参画している9市町村で形成されている「ふくしま田園中枢都市圏」及び県外の大玉村が友好都市を締結している他市町村県内生産者と連携して取り組んでいます。</p>

**5. 取組が開始されたきっかけと展開**

福島第一原発事故により県内の農産物が放射能の問題で提供できなかったり、風評被害で県産物が売れないなどがあり、生産者が作った美味しい野菜を県外の人にも以前のように食べてもらいたいという思いから大玉村産の農産物を販売する東京駅でのマルシェを開始したのがきっかけです。

フードロスに目を向け、規格外野菜や過剰野菜、ひょう被害の果物など、美味しく、新鮮で食べられるのに形や傷により市場に出回らず、廃棄されておりました。廃棄を減らすべく直売所のみで東京駅でのマルシェを行っていましたが、単体ではフードロス解決に至っていないのが現状でした。この問題を少しでも解決するため、他市町村と連携し、形や傷によりスーパーなどでは販売されない地域ごとの農産物を関東圏に安価で販売することで、農家の助けになればと思っています。

**6. 応募した取組の今後の計画・展開**

生産者（農家）と消費者を繋ぐことが役割です。本取組に賛同していただける生産者を増やし、開催規模を全国に拡大を行い、野菜・果物のほか、肉や鮮魚などの種類を増加することで廃棄される食品の減少に繋がるよう努めていきます。また、コロナ感染拡大の影響もあり、経済的に厳しい家庭の子供を対象に「子ども食堂」を開き、農家から規格外・過剰供給・ひょう被害等の野菜を提供していただき、食材を使用したお弁当を振舞うことでSDGs目標「2. 飢餓を無くそう」、「12. つくば責任 つかう責任」の達成を目指し、取り組んでいきたいと考えております。

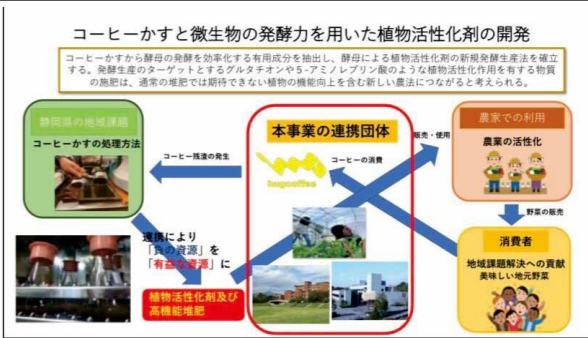
**7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**

規格外・過剰供給・ひょう被害野菜で困っている生産者は全国に沢山おり、企業や生産者、自治体が連携することで、それらの問題解決に対する汎用性が高い協力体制の構築につながることも、「もったいない野菜」を購入し、消費することで誰でもSDGsに取り組めます。



## コーヒーかすと微生物の発酵力を用いた植物活性化剤の開発

株式会社hug coffee company × 静岡県立大学

<p><b>1. 取組概要</b></p>	<p>ハグコーヒーは静岡市内でコーヒーショップを4店舗を運営しており、1年間に店舗から排出されるコーヒーかすは約5tです。現在、それらのコーヒーかすは堆肥や入浴剤などに転用をしています。今回はさらに、コーヒーかすの残留成分に着目し、静岡県立大学食品科学部環境生命学科原研究室と連携することで、コーヒー産業から生み出されるコーヒーかすの有効利用の方法の一つとして、微生物を利用した有用物質の発酵生産方法を確立し、ハグコーヒーが注力しているSDGs各項目の達成を目指します。</p>
<p><b>2. 該当するSDGs目標</b></p>	<p><b>3. 取組イメージ</b></p> 
<p>12 つくば責任 つかう責任</p> <p>コーヒーショップを運営するうえで、日々大量に排出されるコーヒーかすを有用化し、ゼロミッションを目指しています。有用物質を用いた植物活性化剤、高機能堆肥を開発し、農業の活性化に寄与をします。</p>	<p><b>4. ポイント</b></p> <p>昨年の本アワードにおいてサステナビリティ賞を受賞したコーヒーかすの堆肥作りで、廃棄物としてのコーヒーかすはほとんど無くなりました。昨年の取組から続く持続可能性に加え、取組の波及効果に重きを置いています。</p>
<p>17 パートナリシップを 構築しよう</p> <p>県内の各団体と連携し、静岡のコーヒーショップから静岡の農園、そして静岡の人々の手に農作物等を届けます。</p>	<p><b>5. 取組が開始されたきっかけと展開</b></p> <p>まずはじめに、静岡県は、コーヒー飲料の製造品出荷額が全国3位の一大生産地であるため、コーヒーかすが多く発生しています（2020年工業統計）。そのため、多くのコーヒーメーカー、コーヒーショップ、カフェがその処理方法について研究、有効利用に取り組んでいます。しかしながら、未だ堆肥の行先不足など、多くの問題を抱えています。業界大手のコーヒー関連企業がこの問題解決に取り組んだ所、会社としての規模が大きすぎる為頓挫したとの情報を得ました。そこで、ハグコーヒーなら逆に規模は小さいが、故のフットワークの軽さを活用し問題解決をすることができるのではないかと、過去にコーヒーかすの研究に取り組んだ実績のある県立大学原准教授に協力、連携を求めました。</p>

**6. 応募した取組の今後の計画・展開**

コーヒーかすには、5-アミノレブリン酸の細胞内の合成を活性化させるレブリン酸が多く含まれていることが知られています。そこで、ハグコーヒーの店舗より実際に排出されるコーヒーかすからの抽出液の調製条件を種々検討し、レブリン酸を多く含む調製方法を見出すことで、酵母による効率的な5-アミノレブリン酸の生産を目指します。なお、原研究室における近年の研究の結果、一般的な出芽酵母が5-アミノレブリン酸を生産することを見出しています。

1～2年後:どの農作物に有効に作用するかを検証  
連携農園で栽培されている様々な農作物に植物活性化剤を添加し、効果を検証します。

2年後:植物活性化剤生産のスケールアップ  
実験室スケールでの生産を実用レベルにスケールアップさせます

3年後:製品化  
植物活性化剤を連携農園で利用できるようにします

**7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント**

本事業は、取組が開始されたきっかけにも述べた通り、ハグコーヒーの研究をより大きなスケールのコーヒー関連企業が利用する、真似される事でコーヒー業界のゼロエミッション化の一助になると考えています。この研究を知財化しないことで本技術が広まり、全地域的なSDGsの達成に貢献したいと考えています。

研究に関しては、県立大学及びその協力機関等と行うため汎用性は低いですが、実際には植物活性化剤を農園等に利用してもらう事や、そこから収穫された野菜を小売店等に販売してもらうなど、コーヒー業界のみならず、誰でも参加できる取組になっています。



## 企業リソースをフル活用してウクライナの子も達に支援の輪を！

### 法月株式会社 × 全国の仏壇販売店 × 静岡新聞社 × 日本ユニセフ協会

<p><b>1. 取組概要</b></p>	<p>仏壇仏具製造をしている法月株式会社が、ウクライナの平和を願った紙製スタンドを仏具の製造パートナー工場にて生産してもらい、全国の取引先に購入のご協力を依頼し、結果計113法人様および多くの個人様にお買い上げいただき、計13,282枚を販売しました。販売活動の中では、静岡新聞社様に記事として本活動をご掲載いただいたことによる販売増も起因しています。(ピーススタンド1枚の販売につき30円を寄付としてお預かりし、さらに法月株式会社よりマッチング寄付として15円/枚を加算した45円を寄付) 合計597,690円を公益財団法人日本ユニセフ協会様の「ウクライナ緊急募金」宛てに寄付し、ウクライナで苦しんでいる子ども達を支援しました。</p>
<p><b>2. 該当するSDGs目標</b></p>	<p><b>16 平和と公正をすべての人に</b> 戦時下で苦しんでいるウクライナの国民に対して、日本の中小企業でも何か支援ができないか考え、ユニセフが実施している「ウクライナ緊急募金」に募金を行う支援活動を実施しました。</p>
<p><b>17 パートナシップを強めよう</b></p>	<p>平和を願うピーススタンドをパートナー企業にて生産していただき、それを取引先の仏壇店等に協力をお願いしてご購入いただきました。また静岡新聞社様にも本活動を紹介頂き、一般個人からも購入いただきました。収益の一定額及び自社から拠出した寄付金を上乗せしてユニセフに募金しました。</p>
<p><b>3 すべての人に健康と福祉を</b></p>	<p>ユニセフに募金された寄付金は、ユニセフにて水を浄化する浄化剤、緊急医療品キット、毛布や子供向けの学習キットやレクリエーションキットなどの支援品を購入し、ウクライナで必要としている方々に届けるために使用されます。</p>
<p><b>3. 取組イメージ</b></p>	<p>パートナー製造工場 → 法月(株) → 販売店 → 静岡新聞社 → 一般の方々 → 日本ユニセフ協会 → ウクライナの子も達</p>
<p><b>4. ポイント</b></p>	<p>中小企業の弊社では寄付の金額も小さく、単発的な支援活動で終わってしまいます。そこで、支援のシンボルとなり、かつ安価で物理的に後に残るモノができないかと考え、このピーススタンドを発売しました。このスタンドを手に入れた方々が、ご家庭で、職場で置いていただくことで、その周りの方々にも支援の意識が芽生えていく副次的な願いも込めています。</p> <p>また、商品製造知識と経験、生産パートナーや顧客である販売店様のご協力、ご縁のあるメディア様といった自社が持つリソースを全て使い、かつ支援に必要な迅速さも重視して寄付活動を行いました。</p>

### 5. 取組が開始されたきっかけと展開

ロシアによるウクライナ侵攻のニュースで何の落ち度もない子どもたちが傷つき、泣きじゃくる姿を見て、他人事とは到底思えず、遠く離れた国の中小企業でも何かできることはないかと悩みました。

弊社だけでは金額も小さく、さらに自社内だけで完結してしまいます。支援をしたくてもどのようにしたらいいかわからないと考えていたら、同様に多くいるのではと思い、少額の寄付で済み、支援の輪をできるだけ多くの人に広げられる「モノ」を販売するやり方を考えました。

そこで、平和のシンボルであるハトと植物のオリーブがウクライナの空を舞っている様子をイメージしたデザイン（背景はウクライナの国旗の色、「PRAY FOR PEACE」は「平和への祈りを捧げよう」を意味します）を社内で起こし、弊社の仏具製品の生産パートナーである海外の印刷工場に依頼して厚紙製のピーススタンド15,000枚生産いただきました。

一方弊社の全国の仏壇仏具のお取引先に案内を出してスタンド購入を通じたご協力を、日々の営業活動でも一件一件ご販売店様に本活動の意義と寄付を丁寧に説明し、販売店様によっては1法人で数百枚のご購入をいただきました。

また、静岡新聞社様にもこちらから本活動をご紹介いただけないか打診し、ありがたくも記事として掲載いただき、それによって多くの個人様からも直接ご購入のご注文を頂くことができました。結果、サンプル品提供及びウクライナ大使館様への寄贈を除いた計13,282枚を完売いたしました。

### 6. 応募した取組の今後の計画・展開

今回初めてチャリティー活動を行いました。始める前は皆様にご賛同いただけるか、スタンドを売れるのか多くの不安がありました。結果多くの方々にご協力いただいたことで、こういった活動に対する自信を得ることができました。

今後は、日本内外に関わらず大きな戦禍や災害が発生してしまった際、同様の紙製もしくは寄付を含むオリジナル商品販売等を通じた支援事業を行っていきたく思います。

### 7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

本活動では、たまたま紙製のスタンドを通じての寄付活動を行いました。物理的な媒体である制限さえもなく、何かのサービスやアクションでも構わないと思います。

また、支援先は戦禍の人々だけでなく、天災も含めると日本では特に多くの支援の必要性があります。

全ての産業で自分たちにしかできない商品やサービスがあるはず。また、事業をやられている限りは多くの顧客・取引先とご縁があるかと思えます。それらの会社の財産をどのように活用して支援活動を行っていくか、誰でもパッションとアクション次第で無限に生まれ得ると思います。

## 【しずおかSDGsフェスタ2022】の企画立案と開催実施

日興美術(株) / ダイワ製本(株) × しずおかSDGsフェスタ2022出展/ 協賛企業・団体  
しずおか焼津信用金庫、中部電力パワーグリッド(株)、(一社)静岡県トラック協会 青年部会、静岡県地球温暖化防止活動推進センター、他7社 団体  
× 協賛19社 団体×ゲスト (静岡県立静岡農業高等学校、静岡県立駿河総合高等学校、静岡県立焼津水産高等学校)

<p><b>1. 取組概要</b></p>	<p>SDGs Local 2030Hubである静岡市において、企業・団体の連携、パートナーシップにより静岡市のさらなるSDGsの普及推進を図る場の創造を目的に、イベント「しずおかSDGsフェスタ2022」を開催しました。企業・団体のSDGsの取組のPRにより、企業や団体・市民のSDGsのアクションのきっかけを醸成し、「知る」・「学ぶ」から「行動」へと、その普及を目指します。日興美術(株)が主催して取りまとめを行い、複数の取組企業や団体、学校とのアライアンスにより開催を実現しました。多くの市民に対してより具体的な取組や成果を発表し、相互理解の促進、情報交換など、SDGsを展開するうえで重要なコミュニケーションの「機会と場」を提供することができ、さらに継続的な情報交換の道筋立てや、毎年開催に向けた新たな仕組みづくりにも取り組んでまいります。</p>
<p><b>2. 該当するSDGs目標</b></p>	<p><b>8 働きがいも経済成長も</b> 身近な企業や団体がSDGsにどのように取り組んでいるか、社会や人々にどんな貢献をしているかを正しく伝えることで、その仕事や企業に対する働きがいや、やりがいを感じてもらえるよう正しい伝播普及に努めます。同時に、持続可能性を高めるためにも、経済活動にも結び付けることで息尽きのしない活動を推進します。</p>
<p><b>9 産業と資源循環の創出もつなごう</b></p>	<p>様々な産業の企業や団体、さらには学校などの教育機関も含めて産官学一体となってSDGsの目標を実現するためのアイデアや施策や、関連商品の開発などを行い、新たな可能性の芽吹きを支援しています。</p>
<p><b>17 パートナシップを強めよう</b></p>	<p>SDGsに取り組む多くの企業や学校、各種団体、個人を繋ぎ、高いパートナーシップを醸成し、互いに手を取り合いコミュニケーションを通じて信頼関係を高めSDGsの有意義な活動に繋がります。</p>
<p><b>3. 取組イメージ</b></p>	<p>令和4年4月17日(日)「しずおかSDGsフェスタ2022」を、葵スクエア(青葉イベント広場)にて開催しました。1年前からの企画立案に始まり、運営方針策定、参加企業の募集など、手探りの中で主催事業を日興美術・ダイワ製本SDGs推進委員会が担い、静岡市の後援を仰ぎつつ、出展11企業・団体、協賛18企業・団体にて実施。当日はあいにくの天候にもかかわらず多くの来場者にSDGsに企業や団体の取組発表や展示を通して普及促進に努めました。</p>
<p><b>4. ポイント</b></p>	<p>構成：「SDGsってなあに？」シール絵本贈呈式/ゴミ拾い侍などのパフォーマンス/出展企業・団体の紹介、PR、発表・展示によるプレゼンテーション/エコカー・水素自動車によるデモンストレーション/東京SDGs吹奏楽団による演奏(雨天中止)他</p> <p>日興美術(株)が持つ企画力や運営力、印刷力など情報伝達のためのスキルをフル活用し、イベントを運営を行いました。また出展企業や学校、団体などと産学一体となって、SDGsへの新たな取組や商品開発、アクションプランなどの開発や発表を支援。SDGsの活動の意義や必要性、課題などをオープンな場で発表することで、来場者をもっと各企業・団体内の社員や関係者に広くSDGsの周知アピールをすることができました。開催は1日ですが、手探りの中で企画などに時間をかけて開催し、現在は次回開催に向けて動き始めています。</p>

### 5. 取組が開始されたきっかけと展開

日々の営業や企業活動を通じて、顧客や新しいお客様にSDGsの取組やその重要性をアピールする中で、果たして自分たちのSDGs活動は正しく伝わっているのか、効果は得られているのか、あるいは目標達成に近づいているのかなど、様々な不安を持たれている企業や関係者が多いことを知りました。

また他社の取組や活動内容をもっと知りたいという高い欲求もそこにあり、これらを解消するためには、関係者が集まり、発表の場があるべきであると考えました。この機会と場を提供することで一層の普及啓蒙に高い成果が得られると確信し、イベントの主催と運営を計画立案し、多くの参加企業・団体との協力関係のもとで実施に至りました。



参加企業の発表風景 高校生のSDGsの取組発表

### 6. 応募した取組の今後の計画・展開

2030年というゴールがあるとしても、SDGsの取組に終わりはありません。また、たとえ同じ目標に対してでも、10社あれば10の取組があるように、新しい取組が絶えず生まれてきます。誰一人取り残さない社会の実現のために、「しずおかSDGsフェスタ」を単なる普及啓蒙のためのイベントに終わらせるのではなく、ICTを活用した新しい取組の検討や実践、活動に対する顕彰、開催の規模や回数の検討、アライアンスいただく企業や団体の拡大など、より多くの理解者を得て持続可能性のあるSDGs普及活動に努めてまいります。



市民の関心の広がり 子供たちから未来に繋ぐ

### 7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

民間主導による本フェスタのようなSDGsの直接的な発表や交流の場はまだ少ないのが実情です。しかし目標達成に向けて活動や取組を継続するためにも、こうした機会や場を通じ意識を高めることは非常に重要で、意義があります。これは今回のフェスタ開催を経て今まで以上に強く実感しました。

今後はこうしたイベントの継続的な実施を行い、より多くの企業や団体の積極的な参加を望むと共に、企業自らも「場」の創出に取り組んでいただくなど活動の輪が広がるのが大切になります。それは決して難しいことではありません。まずは一歩を踏み出すことこそが大切なことです。

地域単位での草の根運動的な発表会や、学校や団体、グループ単位でのサークル活動など、形や規模や場所、そして趣向を変えて、様々な形でSDGs普及の輪が広がることを期待します。

今回の「しずおかSDGsフェスタ」を運営した日興美術や、かわりをいただいた多くの企業団体も積極的に支援していただけたと思います。

一方で、長期にわたる活動となるSDGsでは、慢性化や飽きなどによる活動の停滞や頓挫のリスクも決して少なくありません。常にモチベーションを維持し高めて、持続的に活動を活性化させるためにも、SDGsをしっかりと企業、学校、そして社会全体に根付かせることが益々重要と考えます。

ようやく出口が見え始めたコロナ禍の現在、まだまだ限定された条件下でイベントの開催や運営には難しい面もありますが、インターネット環境の活用など、時代に即した仕掛けや運営で、SDGsの活動を盛り立てていきたいと思えます。



協賛企業のパネル展示




参加企業団体責任者担当者撮影




## SDGsが学べるノートを学生に！

### 一般社団法人ワークルール × 日興美術株式会社

<p><b>1. 取組概要</b></p>	<p>SDGsのことを学べて行動にもつながるノートを製作しました。普段使いのノートに、SDGsに関する情報を多数掲載したノートです。 全国の大学生・高校生にワークルールの講座を実施し、目標8のディーセント・ワーク推進をする(一社)ワークルールと、印刷会社としてSDGs推進を常に考える日興美術(株)が、共同で検討し実現化したものです。(一社)ワークルールの講座を受講された学生に、順次配布をし始めました。</p>
<p><b>2. 該当するSDGs目標</b></p>	<p><b>3. 取組イメージ</b></p>
<p><b>8</b> 働きがいも経済成長も</p> <p>(一社)ワークルールによる、ディーセントワークの実現に向けた講座を後押しするツールに仕上げました。毎日の生活の中で具体的な行動につながるように、普段手にするノートという媒体にしました。また、ノートページのフッターにある「数字で見るSDGs」が、知識習得を助けます。 【参考・・・掲載した豆知識：24個】</p>	<p>日頃から学生と接しているワークルールが、企画制作・印刷のノウハウを持つ日興美術と連携してできたノートです。各々が考えるSDGsを考えた結果生まれました。</p> 
<p><b>15</b> 海の豊かさを守ろう</p> <p>本文用紙には森林認証紙を採用し、管理された森林資源を使用しています。またノート使用後にも参考書のように使用してもらうため、学生の方々に長く持たせたいため、表紙は耐久性があり、かつ石灰石が原料の素材LIMEX (=森林資源を使用しない)を採用しています。 【参考・・・森林認証紙使用量：556kg】</p>	<p><b>4. ポイント</b></p>
<p><b>17</b> パートナーシップで目標を達成しよう</p> <p>静岡市のSDGs宣言事業を起点につなげた2社が特徴を活かしてできた製品です。県内をはじめ全国の学生と接点のある(一社)ワークルールと、企画/制作/印刷の側面からSDGsを推進する日興美術(株)だからこそできました。 【参考・・・製造数：10,000部、配布範囲：講座を受けた県内高校生・全国の大学生】</p>	<p>以下、ノートの特徴を列挙します。 ●SDGs17の目標と169のターゲットが全文わかる ●世界の実情が数字でわかる「数字で見るSDGs」を掲載している ●広く全国の高校生・大学生に届き、啓蒙・啓発になる ●本文は森林認証紙を採用している ●表紙はLIMEXを採用している ●静岡市SDGs宣言事業があったからできた ●互いのビジネスに役立つアイテム</p>


### 5. 取組が開始されたきっかけと展開

前述のとおり、静岡市のSDGs宣言事業があって初めてつながりが持てた企業同士です。(一社)ワークルールとしては、昨今の事情でオンラインの講座開講が増え、直接的なコンタクトが減ったことが課題にありました。一方で日興美術(株)は、SDGs達成に貢献できる当製品の量産する機会を探していました。そんな両者の思いが合致して、一気に話が進みました。




### 6. 応募した取組の今後の計画・展開

(一社)ワークルールとしてノートをディーセントワークをテーマにした講座のテキストとして使用、全数の配布を進めます。好評だった場合は、増刷も検討します。日興美術(株)としては、このノートの横展開を模索しています。このノートを使ってもらえる環境や企業様などを探すとともに、そのほかの紙媒体でも、SDGsの啓発につながる新しい企画を検討します。



### 7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

本製品は他の事業所・団体でも採用していただくことができます。その会社や団体に合わせた内容にして、ぜひSDGsノートの仲間を増やしたいです。気になる方は、日興美術(株)までご相談ください。また、今回SDGs宣言企業同士で結びついて、お互いの特徴を活かす形で事が進みましたが、そのように宣言企業同士で交流をすることが非常に重要だと考えています。すぐにビジネスに結びつかなくても、ざっくばらんに情報交換することから、思わぬ行動のアイデアが出てくるからです。




## エスパルスホームゲームイベントにて『SDGs DAY』を開催

### (株)エスパルス × 静岡市 × 協力企業・団体・高校

<p><b>1. 取組概要</b></p>	<p>イベントを通じファン・サポーターの皆さんにSDGsを少しでも理解いただき「自分ごと」にしていただくことを目的に、清水エスパルスのホームゲームイベント(明治安田生命J1リーグ 9/10湘南戦 @IAIスタジアム日本平)にてクラブで初めて『SDGs DAY』を開催しました。行政、企業、学校に協力いただきSDGsに関するブース出展、SDGsに関連のあるゲスト来場、福商品のプレゼント企画、飲食店における循環型食器の使用、サステナブルグッズ販売、障がい者スポーツ体験、パートナー企業のSDGs活動紹介、ファン・サポーターのSDGsアクション募集、トップチーム選手へのSDGs研修などを実施し、SNSでも積極的に情報発信を行いました。</p>
<p><b>2. 該当するSDGs目標</b></p>	<p><b>3. 取組イメージ</b></p>
<p><b>17</b> パートナーシップで目標を達成しよう</p> <p>行政、企業、団体にご協力いただきイベントを開催。ブースエリアには企業4ブース、行政4ブース、高校2ブースが出展。パートナー企業35社の活動紹介展示や高校5校とのコラボ企画なども当日実施し、様々な目線からSDGsを発信しました。</p>	
<p><b>4</b> 質の高い教育をみんなに</p> <p>クラブを通じてSDGsを身近に学んでいただけるイベントを実施しました。同時開催した『高校コラボデー』を含む地域の学生とのコラボ企画には、2022年度、年間で大学2校、高校11校延べ631名に参加いただきました。</p>	<p><b>4. ポイント</b></p>
	<p>発信力のあるクラブが関わることでSDGsや社会課題を身近に感じいただくことを目指しました。また、地域スポーツ振興とホームタウン活動の一環で、地域の高校生の実践的な学びの場を提供することを目的に毎年実施している地元高校生とのコラボ企画も『高校コラボデー』として同時開催し、若い世代からの情報発信も積極的にを行い、活躍の場を創出しました。</p>

### 5. 取組が開始されたきっかけと展開

エスパルスでは、2019年にSDGsにも積極的に取り組んでいく姿勢の表明としてJリーグクラブ初 優先的に取り組むSDGs7項目ならびにロゴ・キャッチフレーズを策定しました。策定までのステップは下記の通りです。  
2019年6月 社員勉強会を行い、クラブの活動がどのSDGsにひもづくか、またクラブとしてどの活動に力を入れるべきかを議論  
2019年7月 社員とステークホルダーの皆さんに、エスパルスがどのSDGsに取り組むべきか、インタビューを実施。その結果を「地域の皆さんの期待」と「クラブビジネスとの関連性」の2軸で分析  
2019年10月 分析結果をふまえ、クラブで17項目から優先7項目を決定  
・2020年度より、クラブの価値がステークホルダーに横断的にもたらされていることを示すため、「エスパルスファミリー数」をKPIとして設定し毎月カウントしています。  
・2021年度より優先7項目に対するSDGs取組目標を社内全部署にて策定し、年度末に実績を公式サイトにて公開しています。  
・SDGsへの取組を強化する中で、2022年9月ホームゲームイベントとして『SDGs DAY』を開催。


### 6. 応募した取組の今後の計画・展開

クラブのキャッチフレーズは、『S-PULSE SDGs ACTION 地域と共に未来につなぐ』です。「サッカーゴール」をモチーフとしたロゴにはSDGsロゴの17色のテーマカラーを使用しており、「17の目標の達成」というゴールを目指してエスパルスが事業を推進していくことを表現しています。  
今後もクラブの強みである人材、発信力、パートナー企業などを活かしたプログラムを提供し、クラブがハブとなり様々な連携でSDGsに取り組んでまいります。また、定期的にSDGsイベントも開催していきたいと考えています。



### 7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

・SDGsとは？また実際どんな活動がSDGsなのか？を知ってもらう(関心を高める)  
・SDGsとエスパルスが関係していることを知ってもらう(クラブの活動を理解してもらう)  
・SDGsと一緒に取り組んでもらう(クラブの活動に参加・サポートしてもらう)  
この3軸で様々なイベントを企画しました。今後もクラブ自らがSDGsに取り組むとともに、クラブをつかっていただき、地域の皆様とともにSDGs活動を広めていきたいと考えています。






◎ お問合せ代表

## 1 貧困をなくそう

## 2 飢餓をゼロに

## 3 すべての人に健康と福祉を

### 生命保険販売を通じた共同寄付による地域貢献活動 P16

事業所・団体名	◎ フコクしんらい生命保険 株式会社	所在地	東京都新宿区西新宿8-17-1
連携における役割	活動の提案および実施の主体。		
事業所・団体名	しずおか焼津信用金庫	所在地	静岡市葵区相生町1-1
連携における役割	フコクしんらい生命保険株式会社と共に活動。		

### SDGs健康増進プログラム セイリンPRESENTS「ハッピーシニアプロジェクト」～運動とはり健康に～ P17

事業所・団体名	◎ 株式会社 エスパルス	所在地	静岡市清水区袖師町1492
連携における役割	施設及び運動プログラム、指導者の提供。		
事業所・団体名	セイリン 株式会社	所在地	静岡市清水区袖師町1007-1
連携における役割	鍼灸商品の提供及びツボ体験の施術。		
事業所・団体名	静岡市役所 高齢者福祉課	所在地	静岡市葵区追手町5-1
連携における役割	広報協力。		

## 4 質の高い教育をみんなに

### 海の街でまなぶ 小中学生からのSDGs!! P15

事業所・団体名	◎ 株式会社 ドリームプラザ	所在地	静岡市清水区入船町13-15
連携における役割	SDGs教育プログラムの企画立案。SDGs講座実施スペースの提供。食事提供。地元企業とのタイアップ交渉窓口。		
事業所・団体名	伊豆川飼料 株式会社	所在地	静岡市清水区横砂南町4-35
連携における役割	SDGs講座の講師。講座受講者に対してのお土産として伊豆川飼料の缶詰を用意。		
事業所・団体名	富士山清水港クルーズ 株式会社	所在地	静岡市清水区日の出町10-80
連携における役割	修学旅行の企画立案、商品化。旅行会社へのアプローチ。清水港遊覧船の運行		

### SHIZUOKA SDGs Action!2021 SDGs学生インタビュー P18

事業所・団体名	◎ しずおか焼津信用金庫	所在地	静岡市葵区相生町1-1
連携における役割	参加企業の募集及び県立大学と企業の仲介。		
事業所・団体名	静岡県立大学(湖中研究室)	所在地	静岡市駿河区谷田52-1
連携における役割	フィールドワーク授業の展開及び学生指導。		
事業所・団体名	株式会社 あいネットサービス	所在地	静岡市駿河区宮本町8-10
連携における役割	学生インタビューへの対応と報告会への参加。		

事業所・団体名	株式会社 イーシーセンター	所在地	静岡県富士市五真島919
連携における役割	学生インタビューへの対応と報告会への参加。		

事業所・団体名	株式会社 小野田産業	所在地	静岡市清水区梅田町13-8
連携における役割	学生インタビューへの対応と報告会への参加。		

事業所・団体名	株式会社 きんぱら	所在地	静岡市駿河区向敷地1434
連携における役割	学生インタビューへの対応と報告会への参加。		

事業所・団体名	空き家買取専科 株式会社 Sweets Investment	所在地	静岡市駿河区下川原6-26-14
連携における役割	学生インタビューへの対応と報告会への参加。		

事業所・団体名	スマートブルー 株式会社	所在地	静岡市葵区千代2-17-23
連携における役割	学生インタビューへの対応と報告会への参加。		

事業所・団体名	ナガハシ印刷 株式会社	所在地	静岡市駿河区みずほ1-35-3
連携における役割	学生インタビューへの対応と報告会への参加。		

事業所・団体名	西光エンジニアリング 株式会社	所在地	静岡県藤枝市高柳3-30-23
連携における役割	学生インタビューへの対応と報告会への参加。		

事業所・団体名	日興美術 株式会社	所在地	静岡市葵区流通センター12-2
連携における役割	学生インタビューへの対応。		

事業所・団体名	株式会社 ピーエーシー	所在地	静岡市葵区七間町8-20 毎日江崎ビル7階
連携における役割	学生インタビューへの対応と報告会への参加。		

事業所・団体名	社会福祉法人 天心会 特別養護老人ホーム竜爪園	所在地	静岡市葵区長尾89-1
連携における役割	学生インタビューへの対応と報告会への参加。		

事業所・団体名	株式会社 LIFEAT.	所在地	静岡市葵区長沼622
連携における役割	学生インタビューへの対応と報告会への参加。		

### Smile～SDGsで笑顔を届けたい～ (「S」mile:SDGs・Smile・Student・Social・Shizuoka) P19

事業所・団体名	◎ 一般社団法人 しずおかビジョン研究所	所在地	静岡市駿河区下川原南17-20
連携における役割	2021年度グローバルユース国連大使である高校生が中心となって青少年にSDGs実践への啓発に取り組んでいます。		

事業所・団体名	ナガハシ印刷 株式会社	所在地	静岡市駿河区みずほ1-35-3
連携における役割	高校生の活動に共感し、クラウドファンディングなどを手掛けるだけでなく、印刷を通じてSDGs実践に取り組んでいます。		

### ホームタウン次世代育成プロジェクト エスプラス P20

事業所・団体名	◎ 株式会社 エスパルス	所在地	静岡市清水区三保2695-1
連携における役割	実施主体(実施日程の調整、授業実施、事業に関する広報等)。		

事業所・団体名	一般社団法人 プロフェッショナルをすべての学校に	所在地	静岡市駿河区大谷836 静岡大学教育学部I棟205 塩田研究室内
連携における役割	授業コンテンツ監修。		

事業所・団体名	静岡市役所 スポーツ交流課	所在地	静岡市葵区追手町5-1
連携における役割	教育委員会等関係機関への周知、各学校への募集案内送付、事業に関する広報。		



◎ お問合せ代表

事業所・団体名	明陽電機 株式会社	所在地	静岡市清水区七ツ新屋485
連携における役割	授業協力(2022年度 静岡市)。		
事業所・団体名	フジ物産 株式会社	所在地	静岡市清水区大坪2-5-32
連携における役割	授業協力(2022年度 静岡市)。		
事業所・団体名	東海澱粉 株式会社	所在地	静岡市葵区伝馬町24-15
連携における役割	授業協力(2022年度 静岡市)。		
事業所・団体名	トヨタユニテッド静岡 株式会社	所在地	静岡市葵区長沼611
連携における役割	授業協力(2022年度 静岡市)。		
事業所・団体名	コアレックス信栄 株式会社	所在地	静岡県富士市中之郷575-1
連携における役割	授業協力(2022年度 富士市・富士宮市)。		

5 ジェンダー平等を実現しよう

働くことで住みたくなる、子連れ出勤がHubになる多世代交流Cafe P21

事業所・団体名	◎ 特定非営利活動法人 クオーレ	所在地	愛知県豊橋市三本木町字新東上2-7,1-14
連携における役割	店舗の運営、市役所との連携、会計管理等、スタッフとしての就労。		
事業所・団体名	ママの働き方応援隊 豊橋校	所在地	愛知県豊橋市
連携における役割	スタッフとしての就労、SNS運用、ワークショップ等の調整。		

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

地域課題を異業種連携で解決!「わさび蓮根味噌漬け」の誕生! P9

事業所・団体名	◎ 株式会社 季咲亭	所在地	静岡市葵区谷谷5-1-6
連携における役割	製造販売。		
事業所・団体名	浮月楼	所在地	静岡市葵区紺屋町11-1
連携における役割	徳川家にゆかりのある商品レシピの監修。		
事業所・団体名	日興美術 株式会社	所在地	静岡市葵区流通センター12-2
連携における役割	商品ブランドプランナー。		
事業所・団体名	あおい高原育苗生産 株式会社	所在地	静岡市葵区横山234
連携における役割	水わさび提供。		

事業所・団体名	静岡県立駿河総合高等学校	所在地	静岡市駿河区有東3-4-17
連携における役割	静岡市の歴史文化をテーマにマーケティング研究、しずおかSDGsフェスタの発表。		

SDGsに取り組む企業・団体の組織発足による相互連携 P22

事業所・団体名	◎ 静岡信用金庫	所在地	静岡市葵区昭和町2-1
連携における役割	事務局として事業の運営、サポート。		
事業所・団体名	三井住友海上火災保険 株式会社 静岡支店	所在地	静岡市葵区呉服町1-2
連携における役割	事務局および会員企業に対する情報提供。		
事業所・団体名	静岡県地球温暖化防止活動推進センター	所在地	静岡市葵区黒金町12-5 丸伸ビル2階
連携における役割	事務局および会員企業に対する情報提供。		
事業所・団体名	公益財団法人 静岡県産業振興財団	所在地	静岡市葵区追手町44-1 静岡県産業経済会館4F
連携における役割	事務局および会員企業に対する情報提供。		
事業所・団体名	公益財団法人 ふじのくに未来財団	所在地	静岡市駿河区八幡1-2-21 KKビル101
連携における役割	事務局および会員企業に対する情報提供。		
事業所・団体名	地元自治体	所在地	
連携における役割			

10 人や国の不平等をなくそう

誰もが輝ける社会を目指して!楽しみながら学べる『SDGsかるた』の製作と活用 P23

事業所・団体名	◎ 加山興業 株式会社 豊川本社	所在地	愛知県豊川市南千両2-67
連携における役割	『SDGsかるた』について企画、障がい者支援施設シンシア豊川へ提案、製作手配、広報活動・販売を担っています。		
事業所・団体名	障がい者支援施設シンシア豊川	所在地	愛知県豊川市平尾町諏訪下10
連携における役割	『SDGsかるた』の絵について作成、SDGsかるた製作に向けた助言等を担当しました。		

11 住み続けられるまちづくりを

『モルックで地域も人間関係も活性化』 P24

事業所・団体名	◎ CWPモルック部	所在地	愛知県名古屋市天白区
連携における役割	大会の主催、企画。		
事業所・団体名	なごのキャンパス モルック部	所在地	愛知県名古屋市西区那古野2-14-1
連携における役割	共催、協賛企業集め、商店街との折衝。		
事業所・団体名	円頓寺商店街	所在地	愛知県名古屋市西区那古野1-6-16
連携における役割	チラシの掲示。		
事業所・団体名	円頓寺本町商店街	所在地	愛知県名古屋市西区那古野2-8-7
連携における役割	チラシの掲示。		



◎ お問合せ代表

12 つくる責任 つかう責任

水産物(マグロ)の未利用資源でみんなを健康に! P7

事業所・団体名	◎ 株式会社 DHAマリンフーズ	所在地	静岡市清水区長崎720-1
連携における役割	製造販売。		
事業所・団体名	東海大学 海洋学部	所在地	静岡市清水区折戸3-20-1
連携における役割	開発。		
事業所・団体名	静岡県工業技術研究所	所在地	静岡市葵区牧ヶ谷2078
連携における役割	開発。		
事業所・団体名	株式会社 nanairo	所在地	静岡市清水区三保1876-6
連携における役割	製造販売。		

耕作放棄地を解消したい、そんな思いから生まれた生姜商品 P25

事業所・団体名	◎ 丸徳商事 有限会社	所在地	静岡市清水区鳥坂575
連携における役割	産業廃棄物から肥料を製造し、製造した肥料を用いて生姜を販売。		
事業所・団体名	ウーマン・ラボ	所在地	静岡市駿河区宮竹2-5-2
連携における役割	生姜を活用して生姜の加工品「生姜のコンチュール」の製造委託に伴う業務と販売。		

農家の助けに「もったいない野菜オンライン交流マルシェ」 P26

事業所・団体名	◎ おおたま村づくり 株式会社(あたらの里直売所)	所在地	福島県安達郡大玉村大山字新田10-1
連携における役割	ふくしま田園中枢都市圏にもったいないマルシェの提案をし、規格外・過剰供給野菜の廃棄抑制を推進。		
事業所・団体名	ふくしま田園中枢都市圏(福島市)	所在地	福島県福島市五老内町3-1
連携における役割	連携中枢都市圏内の生産者の協力依頼および取りまとめ。		
事業所・団体名	友好都市	所在地	茨城県茨城町、茨城県美浦村
連携における役割			

コーヒーかすと微生物の発酵力を用いた植物活性化剤の開発 P27

事業所・団体名	◎ 株式会社 hug coffee company	所在地	静岡市葵区両替町1-4-8 メゾンドルフ706
連携における役割	全体の進捗管理、各機関の調整、結果の取りまとめ、コーヒーかすの提供。		
事業所・団体名	静岡県立大学 食品栄養科学部 環境生命科学科	所在地	静岡市駿河区谷田52-1
連携における役割	酵母によるコーヒーかす抽出液からの有用物質の発酵生産試験。		

13 気候変動に具体的な対策を

エスパルスエコチャレンジ to 2050 ゼロカーボン・プロジェクト P13

事業所・団体名	◎ 株式会社 エスパルス	所在地	静岡市清水区三保2695-1
連携における役割	実施主体。		

事業所・団体名	静岡県地球温暖化防止活動推進センター	所在地	静岡市葵区黒金町12-5 丸伸ビル2F
連携における役割	各種施策におけるアドバイザー。		
事業所・団体名	静岡市役所 環境創造課	所在地	静岡市葵区追手町5-1
連携における役割	COOL CHOICE啓発活動等の協働実施。		
事業所・団体名	静岡大学	所在地	静岡市駿河区大谷836
連携における役割	エスパルスの活動に関わる温室効果ガス排出量の算定、ゼロカーボンに向けてのロードマップづくりへの支援。		
事業所・団体名	KPMGジャパン	所在地	東京都千代田区大手町1-9-7 大手町フィナンシャルシティサウスタワー
連携における役割	各種施策におけるアドバイザー。		

14 海の豊かさを守ろう

海と山と街が繋がるディスプレイ P11

事業所・団体名	◎ アートユニオン 株式会社	所在地	静岡市駿河区下川原6-28-11
連携における役割	企画・施工。		
事業所・団体名	株式会社 大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店	所在地	静岡市葵区御幸町10-2
連携における役割	クライアント。		
事業所・団体名	株式会社 玉川きこり社	所在地	静岡市葵区桂山712-4
連携における役割	企画・施工。		
事業所・団体名	三保松原3Ringsプロジェクト	所在地	静岡市清水区三保1303-3
連携における役割	企画・協力。		

15 陸の豊かさを守ろう

16 平和と公正をすべての人に

企業リソースをフル活用してウクライナの子供達に支援の輪を! P28

事業所・団体名	◎ 法月 株式会社	所在地	静岡市葵区美川町21-10
連携における役割	ウクライナ支援ピーススタンドの企画・デザイン・製造・販売・寄付金回収・寄付実施。		
事業所・団体名	公益財団法人 日本ユニセフ協会	所在地	東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
連携における役割	法月株式会社から振り込んだ寄付金を使用したウクライナ国民への支援活動。		
事業所・団体名	ピーススタンドをご購入いただいた弊社取引先の全国113法人様	所在地	
連携における役割	スタンド購入を通じた活動支援。		
事業所・団体名	株式会社 静岡新聞社	所在地	静岡市駿河区登呂3-1-1
連携における役割	ピーススタンド販売活動を紹介した新聞記事掲載による一般周知。		





## パートナーシップで目標を達成しよう

### 【しずおかSDGsフェスタ2022】の企画立案と開催実施 P29

事業所・団体名	◎ 日興美術 株式会社	所在地	静岡市葵区流通センター12-2
連携における役割	イベントの企画立案、参加企業の募集、開催運営。		
事業所・団体名	ダイワ製本 株式会社	所在地	静岡県藤枝市八幡557
連携における役割	イベントの企画立案、参加企業の募集、開催運営のサポート。		
事業所・団体名	しずおか焼津信用金庫	所在地	静岡市葵区相生町1-1
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022の運営支援、出展・発表。		
事業所・団体名	中部電力パワーグリッド 株式会社 静岡営業所	所在地	静岡市駿河区曲金6-3-38
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022への出展・発表。		
事業所・団体名	株式会社 ライフプラス	所在地	静岡市葵区千代田4-2-21
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022への出展・発表。		
事業所・団体名	株式会社 GOLD BLUE	所在地	静岡市葵区音羽町15-5
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022への出展・発表 SDGs関連商品の開発。		
事業所・団体名	環境のミカタ 株式会社	所在地	静岡県焼津市上新田1019
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022への出展・発表。		
事業所・団体名	ダイドードリンコ 株式会社 中部営業部	所在地	静岡県榛原郡吉田町神戸1283
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022への出展・発表。		
事業所・団体名	あいおいニッセイ同和損害保険 株式会社 静岡支店	所在地	静岡市葵区常磐町1-7-5
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022への出展・発表。		
事業所・団体名	一般社団法人 静岡県トラック協会 青年部会	所在地	静岡市駿河区池田126-4
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022への出展・発表。		
事業所・団体名	スマートブルー 株式会社	所在地	静岡市葵区千代2-17-23
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022への出展・発表。		
事業所・団体名	味の素AGF 株式会社 静岡営業所	所在地	静岡市葵区伝馬町9-4 福一伝馬町ビルディング4階
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022への出展・発表。		
事業所・団体名	静岡県地球温暖化防止活動推進センター	所在地	静岡市葵区黒金町12-5 丸伸ビル2F
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022への出展・発表。		
事業所・団体名	昭和印刷加工 有限会社	所在地	静岡市葵区平和2-29-30
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	株式会社 望月商事	所在地	静岡市駿河区小黒2-8-8
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	株式会社 VELTEXスポーツエンタープライズ	所在地	静岡市葵区宮前町107
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		

事業所・団体名	株式会社 TBM	所在地	東京都千代田区有楽町1-2-2 15F
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	一般社団法人 ワークルール	所在地	静岡市葵区駒形通1-3-4
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	静岡トヨタ自動車 株式会社	所在地	静岡市駿河区国吉田2-3-1
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート 水素自動車ミライの展示デモンストレーション。		
事業所・団体名	三和新静 株式会社	所在地	静岡市葵区流通センター1-1
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	東京インキ 株式会社	所在地	東京都北区王子1-12-4 TIC王子ビル
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	コニカミノルタジャパン 株式会社	所在地	東京都港区芝浦1-1-1 浜松町ビルディング
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ 株式会社	所在地	東京都港区西麻布2-26-30 富士フイルム西麻布ビル
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	株式会社 季咲亭	所在地	静岡市葵区沓谷5-1-6
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート SDGs関連商品の開発。		
事業所・団体名	岡部宿かしばや物産館	所在地	静岡県藤枝市岡部町岡部817
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	浮月楼	所在地	静岡市葵区紺屋町11-1
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート SDGs関連商品の開発。		
事業所・団体名	平井工業 株式会社	所在地	静岡市葵区太田町33
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	山崎工業 株式会社	所在地	静岡市駿河区新川1-7-9
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	株式会社 ホテイフーズコーポレーション	所在地	静岡市清水区蒲原4-26-6
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング 株式会社	所在地	東京都目黒区上目黒2-1-1 中目黒GTタワー
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	株式会社 大井川茶園	所在地	静岡県焼津市上新田685-1
連携における役割	しずおかSDGsフェスタ2022のイベント協賛・サポート。		
事業所・団体名	農プロダクション「いきものがかり」by静岡県立静岡農業高等学校	所在地	静岡市葵区古庄3-1-1
連携における役割	産学共同でのSDGs関連商品の開発。		
事業所・団体名	静岡県立駿河総合高等学校	所在地	静岡市駿河区有東3-4-17
連携における役割	産学共同でのSDGs関連商品の開発。		



◎ お問合せ代表

事業所・団体名	静岡県立焼津水産高等学校	所在地	静岡県焼津市焼津5-5-2
連携における役割	産学共同でのSDGs関連商品の開発。		
事業所・団体名	静岡デザイン専門学校	所在地	静岡市葵区鷹匠2-19-15
連携における役割	SDGsをテーマとして卒業制作パネルをイベント会場に展示・サポート。		

## SDGsが学べるノートを学生に! P30

事業所・団体名	◎ 日興美術 株式会社	所在地	静岡市葵区流通センター12-2
連携における役割	ノートの企画/制作/印刷/製本。		
事業所・団体名	一般社団法人 ワークルール	所在地	静岡市葵区駒形通1-3-4
連携における役割	ノートの企画、ノートの配布。		

## エスパルスホームゲームイベントにて『SDGs DAY』を開催 P31

事業所・団体名	◎ 株式会社 エスパルス	所在地	静岡市清水区三保2695-1
連携における役割	実施主体(実施日程の調整、授業実施、事業に関する広報等)。		
事業所・団体名	静岡市役所 スポーツ交流課	所在地	静岡市葵区追手町5-1
連携における役割	協働事業実施、ブース協力等。		
事業所・団体名	企業・団体	所在地	—
連携における役割	9/10イベント当日におけるブース出展(4企業)、パートナー企業35社による活動紹介展示。		
事業所・団体名	高校	所在地	
連携における役割	9/10イベント当日におけるブース出展(2校)、「高校生コラボデー」企画の実施(5校)。		

本事例集の取組事例において、提出された応募シートを原則そのまま掲載しております。  
中には国際連合広報センターが掲載している「カラーホイールを含むSDGsロゴと17のアイコンの  
使用ガイドライン」に適合しない表記等が見られる場合がございますので、ご注意ください。